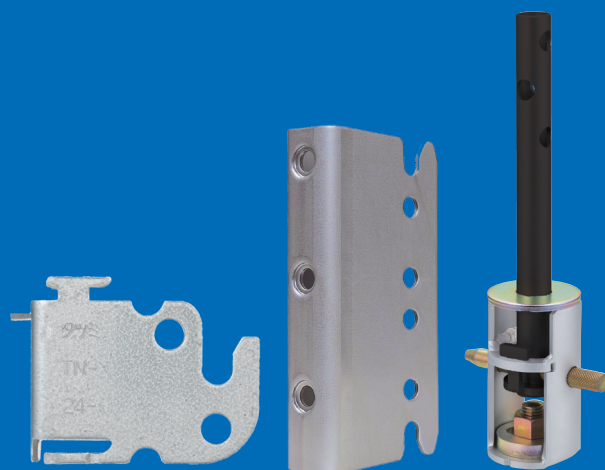




金物工法用金物

梁受金物

- 18 TN-X(クロス) TX
- 22 テックワン P3 TH
- 24 テックワン TCW TCW
- 26 テックワン 3S TL
- 28 TN 高耐力梁受金物 TN

柱頭柱脚金物

- 30 ホールダウンパイプ
- 32 柱継パイプ
- 33 柱持たせパイプ
- 34 ホゾパイプ
- 35 高耐力パイプ式柱頭柱脚金物 HPB-46
- 36 アンカーボルト直結パイプ式柱脚金物 PXB
- 37 アンカーボルト直結パイプ式柱脚金物 HDCⅢ
- 38 パイプ式独立低柱脚金物 LB
- 40 高耐力パイプ式独立柱脚金物 TPB
- 42 高耐力スリット式独立柱脚金物 PBH-63

その他金物工法用金物

- 43 登り梁受金物 GUD
- 44 隅谷木受金物 KP・TP
- 45 土台継手金物 GJ-10Ⅱ
- 45 バリアフリー対応金物 BFI
- 46 火打ち梁受金物 TK-10

工具類

- 47 ドリフトピン DP
- 47 中ボルト MB
- 48 丸座軸太ボルト MZ45
- 48 HDCⅢ専用高力ボルト
- 49 パクトナット NS-M12
- 49 ホールダウンワッシャー HDW
- 50 マグネットソケット(12.7 角用)
- 50 ザボリくん A・B
- 50 ザグリキリ
- 50 MZ45用レンチ
- 51 ピン抜き棒
- 51 スケール棒
- 51 ビット交換式 ソケットアダプター
- 52 施工について

※ TN-multi：水平斜め梁受用途は62ページ参照

[特 長]

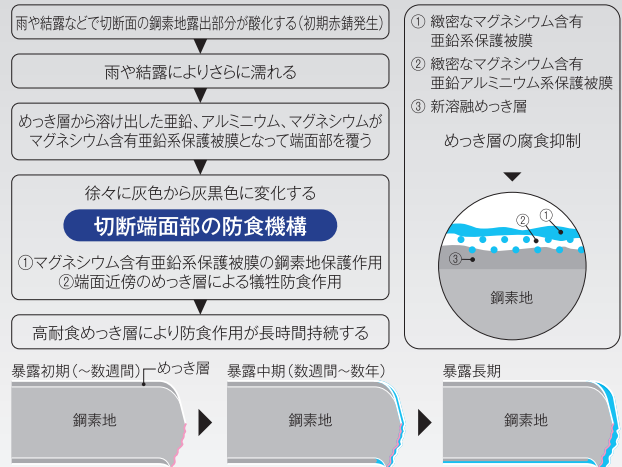
1 耐食性に優れた金物

タツミの金物工法用金物は、耐食性の高いめっき鋼板や高耐食な表面処理を施しています。

● 新溶融めっき鋼板とは

亜鉛・アルミニウム・マグネシウム合金からなる非常に微細な凝固組織を有する耐食性溶融めっき鋼板。時間の経過とともに、めっき表面に緻密で付着性の強い二重保護膜を形成。めっき層の腐食を抑制し、厳しい腐食環境下においても優れた耐食性を発揮します。

切断端面部の防食機構



● ラスパートノンクロムの特長

環境対応型高耐食処理技術ラスパートノンクロムは完全クロムフリーの環境対応型のラスパート処理です。六価クロムはもちろん、三価クロムも一切使用せず防錆性能を維持させることに成功しました。傷付きなどの耐食性にも優れ、アルミ材や高耐食めっき鋼板などに対して電食(異種金属接触腐食)を大幅に軽減します。

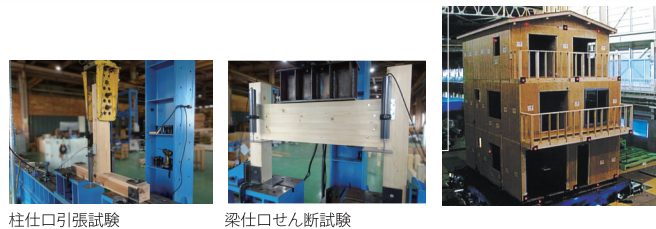
【各種表面処理の耐食性】

表面処理		塩水噴霧試験(Hr)(JIS Z 2371)									
		250	500	750	1000	1250	1500	1750	2000	赤錆なし	白錆なし
新溶融めっき(90μm)											
ラスパートノンクロム											
亜鉛めっき(8μm)	有色										
	黒色										
	緑色										
溶融亜鉛(40μm)											
電気ニッケル(8μm)											
無電解ニッケル(10μm)											

2 強度試験によって耐力性能を明確化

タツミの金物工法用金物は、性能評価機関での確認試験および【「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」(公財)日本住宅・木材技術センター企画発行】の「試験方法と評価方法」に準じた試験を行い接合部の耐力性能を確認、明確化しています。

1995年の阪神淡路大震災を忠実に再現した三次元実大振動試験を行った際には、タツミの金物工法用金物を使用した接合部の破壊は確認されませんでした。



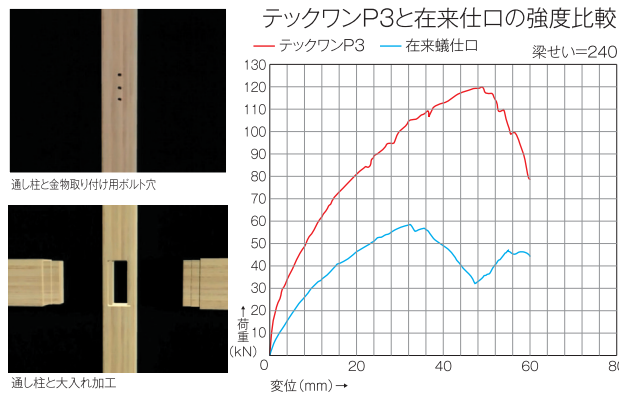
柱仕口引張試験

梁仕口せん断試験

3 木材の断面欠損を最小限化

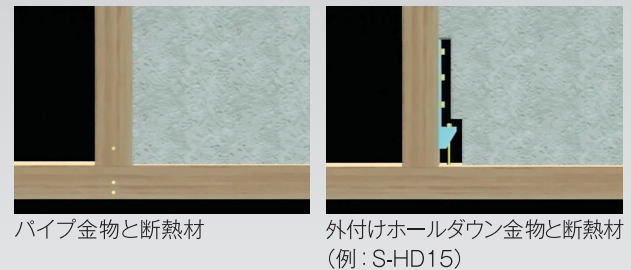
木造建築を頑強にするための重要なポイントは、柱や梁の接合部の断面欠損を極力減らすことです。在来工法では、柱に2方向以上の彫り込みが行われることもあり断面欠損が大きく、大地震時に柱材が折れて建物が倒壊したケースもありました。

タツミの金物工法用金物の接合部では、取り付け用ボルト穴(12mm)の加工だけで済むため、弱点となる断面欠損を最小限に抑えます。



4 断熱性能の向上と現し仕上げに最適

補強金物は木材表面に露出しますが、金物工法用金物は柱や梁の中に収まるので断熱材を隙間なくはめられ、断熱性能を高めることが可能です。また、金物が木材内部に隠れるので見せて仕上げる現し仕上げにも適しています。



パイプ金物と断熱材

外付けホールダウン金物と断熱材(例:S-HD15)



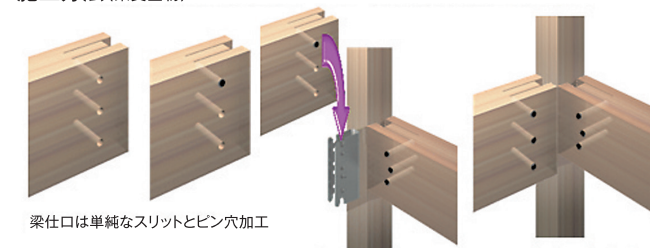
5 高精度の加工、高品質な施工が全国で可能

タツミの金物工法用金物は、一般に使用されているプレカットCAD、加工機に採用され、全国のプレカット工場が対応しているので高精度の金物工法プレカット材が全国どこでも加工可能です。

金物工法は、プレカット工場で金物を取り付けて出荷します。建築現場での金物取り付け作業がなく、現場ではドリフトピンを打ち込むだけの簡単な施工のみで工期の短縮が図れます。さらに、職人の技術に左右されることなく、均一で高品質な施工が可能です。



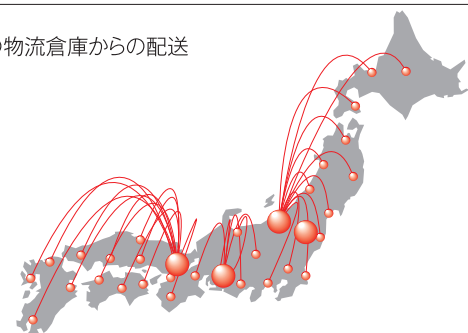
施工方法(梁受金物)



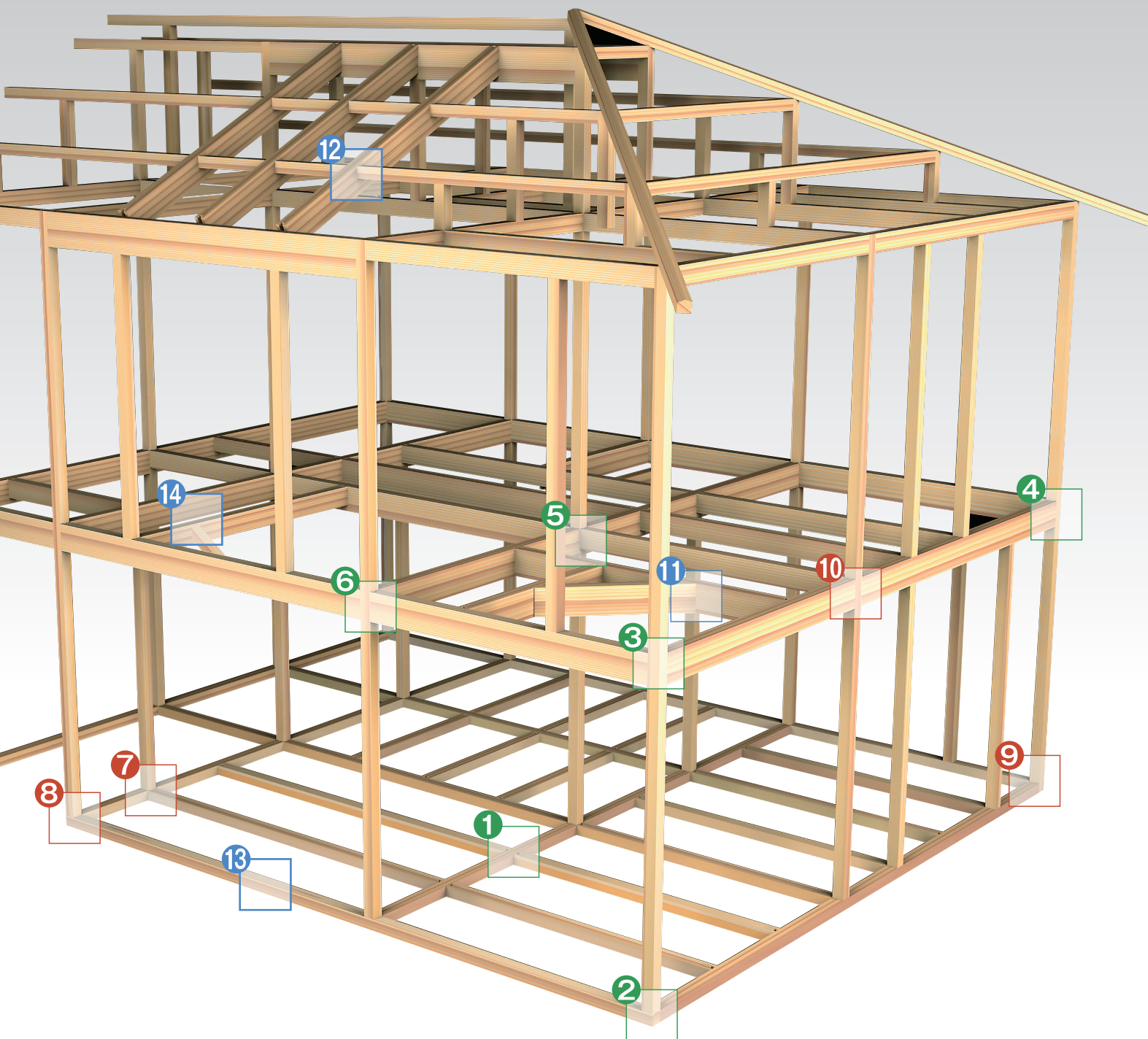
1. 梁のピン穴に先行ピン(ドリフトピン)を打ち込みます。…梁の落下防止
2. 梁を柱・梁に取り付けた梁受金物に取り付けます。
3. 梁のピン穴に固定ピンを打ち込み完了です。

6 全国へ迅速な配送

お客様のご要望に迅速に応えられるよう全国の物流倉庫からの配送体制を整備しています。



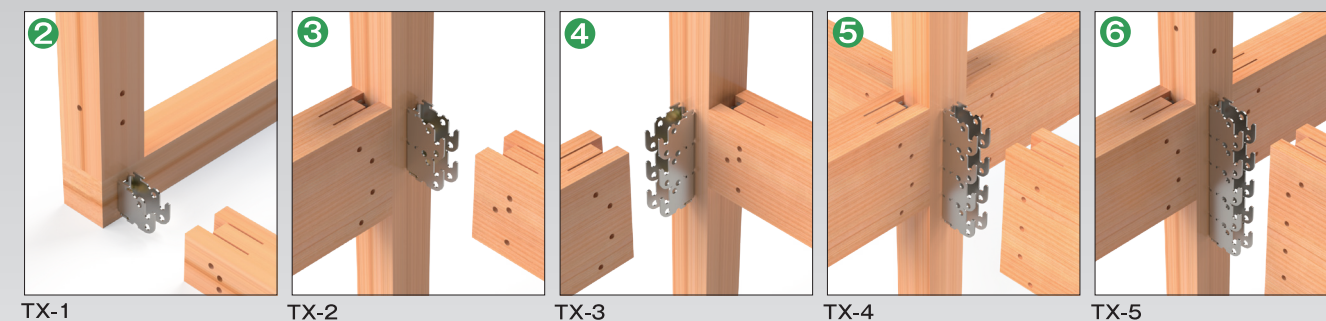
[使用例]



※金物使用例のため、実際の配置とは異なる場合があります。
 ※金物は、実際の応力や木材断面に見合った金物をお使いください。

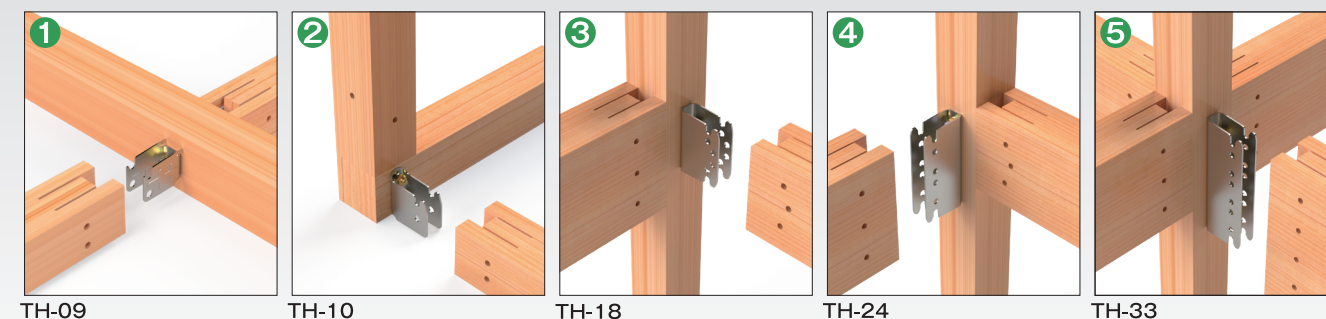
TN-X (クロス)

詳細は18・19・20・21ページ参照



Tec-One P3 テックワンピースリー

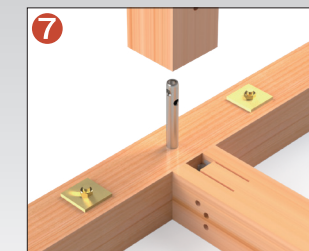
詳細は22・23ページ参照



柱頭柱脚金物

パイプ金物

詳細は30・31ページ参照



HIP-20

アンカーボルト直結柱脚金物

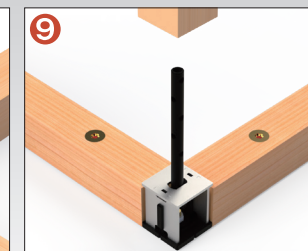
詳細は36ページ参照



PXB

独立柱脚金物

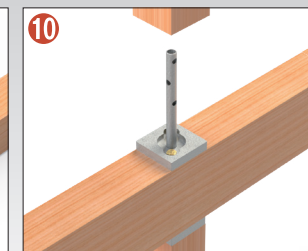
詳細は40・41ページ参照



TPB

柱頭柱脚金物

詳細は35ページ参照

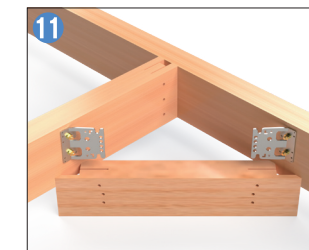


HPB-46

その他金物工法用金物

水平斜め梁受金物

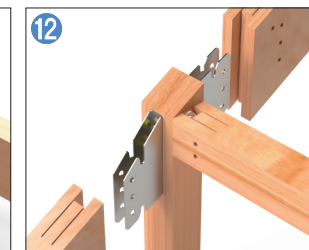
詳細は62ページ参照



TN-multi:水平斜め梁受用途

登り梁受金物

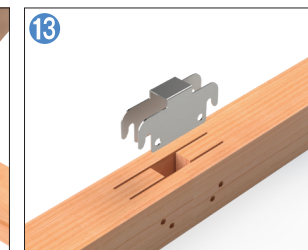
詳細は43ページ参照



GUD

土台継手金物

詳細は45ページ参照



GJ-10II

火打ち梁受金物

詳細は46ページ参照



TK-10

金物工法用
金物

梁受金物

柱頭柱脚
金物

その他
金物工法用
金物

接合具・
工具類

TN-multi

TN-LSB

Deco-
series

テックワン
P3 PLUS

TN-WOLSH
Burring Wall

TN-WOLSH
Beam

製作金物

非住宅用
接合具

火打ちレス
金物

補強金物

座金・ビス

アンカーボルト・
座金付ボルト

その他

Zマーク
表示金物

Cマーク
表示金物

Sマーク
表示金物

J耐震開口
フレーム

ユニット鉄筋・
BRS工法

住宅基礎用
ダイヤレン

参考資料

ティーエヌクロス

TN-X

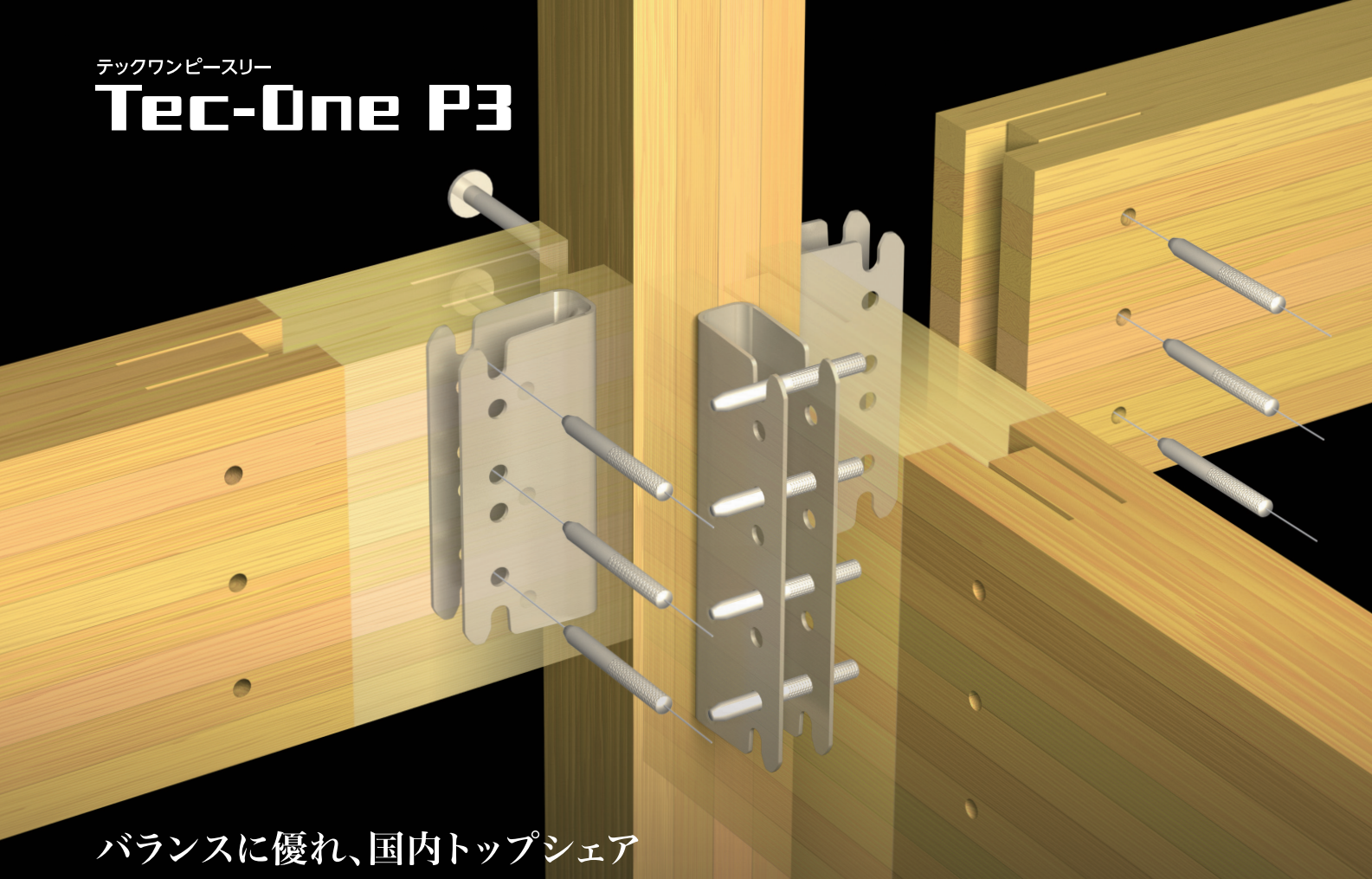
今までにない「一は全」の梁受金物

一種類で全梁成に対応できる梁受金物が登場。

取り付け場所別に金物を選定しなくてもよく、用意する数量も一種類のみ。

今までになかった「この金物を何個使う」を実現した梁受金物です。





バランスに優れ、国内トップシェア

金物工法は断面欠損の最小化や明確な耐力値、簡易な施工方法により強固な軸組を実現し、度重なる大地震や職人不足という時代のニーズに合う工法です。

タツミは20年以上前に「より強く、より使いやすく、より良い金物」を提供することを目指してテックワンP3を開発し、世に送り出しました。

大断面集成材や国産材への対応もいち早く取り入れ、時代に合わせながら用途を広げていきました。「オープンで使いやすい金物」としてテックワンP3は今なお国内トップシェアを誇っています。



TH-09
対応梁成：90mm



TH-10
対応梁成：105～150mm



TH-18
対応梁成：180～210mm

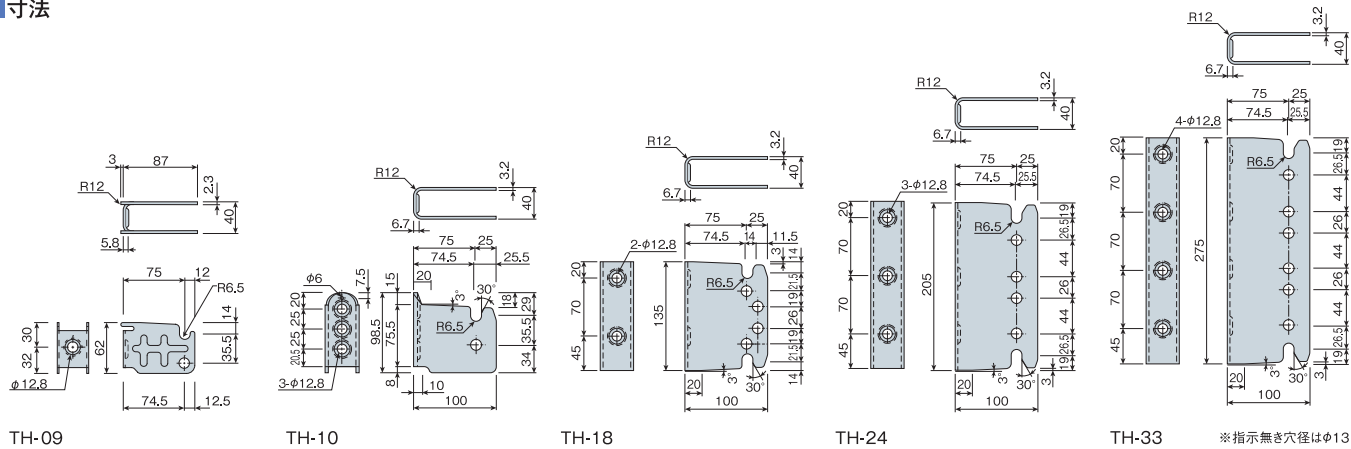


TH-24
対応梁成：240～300mm



TH-33
対応梁成：330～420mm

■寸法



用 途

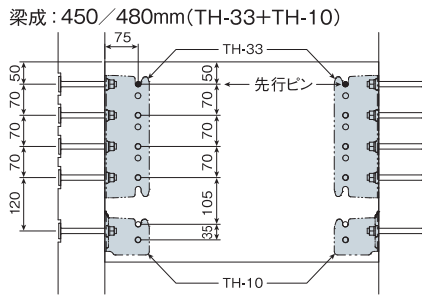
- 構造部材(柱材や横架材など)を接合する際に使用します。

特 長

- ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで、強い接合部が実現可能です。
- 角部には丸みをつけて安全性に配慮しています。
- 背板の折り曲げをR処理する事でボルトの締め過ぎによる金物変形を少なくしています。
- 金物出幅が100mmとコンパクトになっています。
- 多様な樹種での性能確認試験を実施しています。(各耐力値は、技術資料等参照)

施工方法

- ①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
 - ②横架材の仕口には所定の位置に予めドリフトピンを打ち込んでおきます。(先行ピン)※1
 - ③横架材を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
- 2段使いの対応梁成
TH-33+TH-10／対応梁成：450～480※2
TH-33+TH-18／対応梁成：510～540※2
TH-33+TH-24／対応梁成：570～630※2
TH-33+TH-33／対応梁成：660～720
- ※1 先行ピンを正しく打ち込むことにより、横架材を落とし込む際の落下防止になります。
- ※2 2段使いは必ずTH-33が上になるように納めてください。(配置寸法は下図参照)



表中の数値：ハウスプラス確認検査(株)試験結果
※試験時使用木材規格 柱 材／寸法：105×105 樹種：スギKD材 無等級 (※梁せい660mm) 120×120 樹種：スプルース同一等級構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×105～330 樹種：スプルース対称異等級構造用集成材 E105-F300

サ イ ズ	TH-09：87(90)×40×62mm	TH-10：100×40×98.5mm	TH-18：100×40×135mm
	TH-24：100×40×205mm	TH-33：100×40×275mm	
材 質	新溶融めっき鋼板		
認 定	(公財)日本住宅・木材技術センター 性能認定		
梱 包	TH-09：50個／ケース	TH-10：30個／ケース	TH-18：20個／ケース
	TH-24：12個／ケース	TH-33：10個／ケース	

使用接合具（M12ボルト：MB又はMZ45）							
		TH-09	TH-10	TH-18	TH-24	TH-33	
柱	側	M12ボルト（別売品）	1本	1本	2本	3本	4本
横架材側		ドリフトピン（別売品）	2本	2本	3本	3本	4本

耐 力 柱－梁					スブルース集成材	
		TH-10	TH-18	TH-24	TH-33	
短期基準せん断耐力(kN)		8.0	24.3	34.9	41.5	
短期基準（逆）せん断耐力(kN)		9.2	20.9	23.8	41.7	
短期基準引張耐力(kN)		13.6	27.1	34.8	40.3	
接合部倍率（引張耐力÷5.3kN）		2.5	5.1	6.5	7.6	

耐 力 梁－梁				
	TH-10	TH-18	TH-24	TH-33
短期基準せん断耐力(kN)	7.6	15.3	22.7	39.4
短期基準(逆)せん断耐力(kN)	6.9	16.4	22.1	32.4
短期基準引張耐力(kN)	10.3	30.6	40.7	57.6
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	1.9	5.7	7.6	10.8

表中の数値：(公財)日本住宅・木材技術センター／ハウスプラス確認検査(株)試験結果
※試験時使用木材規格 柱 材／寸法：105×105 樹種：スプルース同一等級構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×105～330 樹種：スプルース対称異等級構造用集成材 E105-F300

2段使い 耐力 柱－梁		
製品名	短期基準せん断耐力(kN)	試験時使用木材規格
TH-33+TH-10	46.0	柱：スギKD材 梁：スギ集成材
TH-33+TH-18	59.8	
TH-33+TH-24	65.7	
TH-33+TH-33	75.0	柱：スプルース集成材 梁：スギ集成材

2段使い 耐力 梁－梁		
製品名	短期基準せん断耐力(kN)	試験時使用木材規格
TH-33+TH-10	52.9	梁：スギ集成材
TH-33+TH-18	65.8	
TH-33+TH-24	77.4	
TH-33+TH-33	80.6	

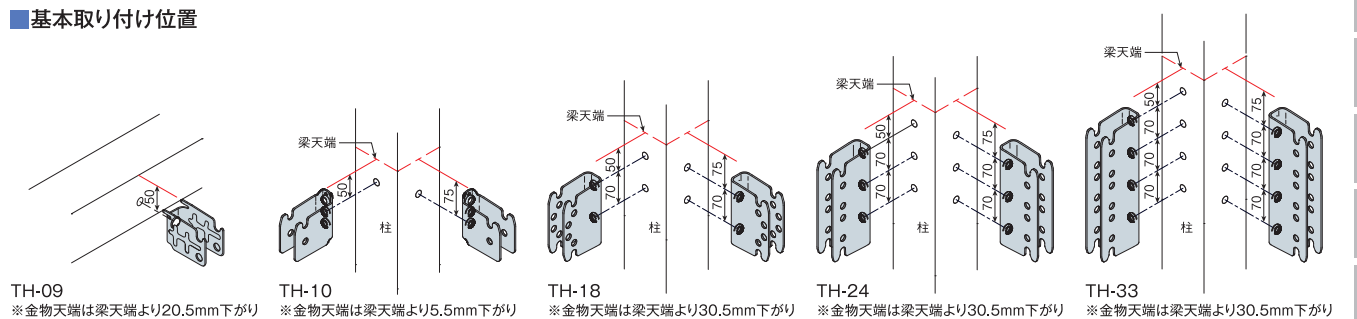
表中の数値：ハウスプラス確認検査(株)試験結果
※試験時使用木材規格 柱 材／寸法：105×105 樹種：スギKD材 無等級 (※梁せい660mm) 120×120 樹種：スプルース同一等級構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×450～660 樹種：スギ対称異等級構造用集成材 E65-F225

小梁90度角力		
製品名	短期基準せん断耐力(kN)	試験時使用木材規格
TH-09	5.5	梁：スギKD材
TH-10	6.0	

表中の数値：ハウスプラス確認検査(株)試験結果
※試験時使用木材規格 土台材／寸法：105×105 樹種：スギKD材 無等級 (TH-09 機械等級E50)
大引材／寸法：90×90 樹種：スギKD材 無等級 (TH-09 機械等級E50)

■ 荷重期間における基準耐力の算出について
短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中长期：0.715、長期：0.55
出典(一社)日本建築学会：木質構造設計規準・同解説―許容応力度・許容耐力設計法―

■基本取り付け位置





テックワンP3の基本性能を維持したコンパクトモデル

コンパクトでありながらより高強度を実現。日本製鉄(株)と(株)タツミの共同開発商品です。日本製鉄(株)が手掛けるスチールハウスのノウハウを最大限に活用し、従来のテックワンP3に比べてコンパクトでありながら耐力がアップした新しい金物を実現し、より広範囲な木造建築物への適用を可能にしました。これまでの解析や試験から、最も発生応力が生じる箇所はボルト穴がある背板部で、それに比較してドリフトピンがかかる羽部は応力が低いことがわかりました。羽部を薄くすることで接合部における重要部分と過剰部分の最適化が図られ、更に特殊なカシメ技術により2つの金物を接合する事で金物の耐力アップとコンパクト化が同時に実現可能となりました。



TCW-10
対応梁成：105～150mm



TCW-18
対応梁成：180～210mm

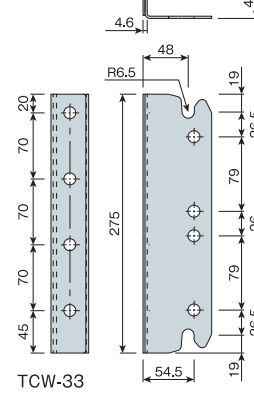
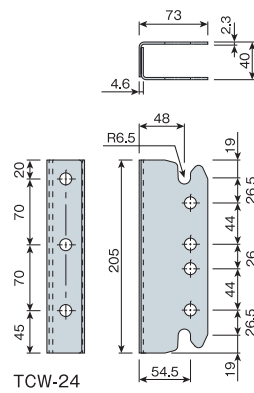
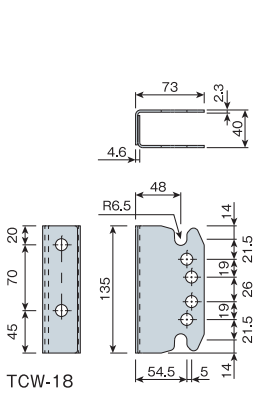
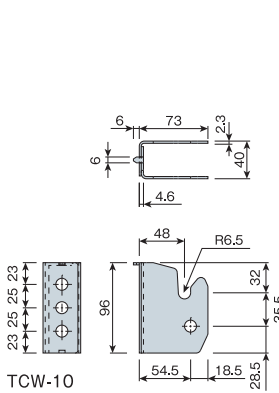


TCW-24
対応梁成：240～300mm



TCW-33
対応梁成：330～420mm

■寸法



※指示無き孔径はφ13

用 途

- 構造部材(柱材や横架材など)を接合する際に使用します。

特 長

- ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで、強い接合部が実現可能です。
- テックワンP3より出幅を抑えコンパクトにし、板厚を薄くすることで最大40%軽量化。
- L型金物をボルト接合面で重ね合わせることで、板厚を最適化して高い耐力を実現しました。

施工方法

- ①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
 - ②横架材の仕口には所定の位置に予めドリフトピンを打ち込んでおきます。(先行ピン)※
 - ③横架材を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
- ※先行ピンを正しく打ち込むことにより、横架材を落とし込む際の落下防止になります。

サ イ ズ	TCW-10：73(79)×40×96mm	TCW-18：73×40×135mm
	TCW-24：73×40×205mm	TCW-33：73×40×275mm
材 質	新溶融めっき鋼板	
梱 包	TCW-10：30個／ケース	TCW-18：20個／ケース
	TCW-24：12個／ケース	TCW-33：10個／ケース

使用接合具（M12ボルト：MB又はMZ45）

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
柱 側	M12ボルト(別売品)	1本	2本	3本
横架材側	ドリフトピン(別売品)	2本	3本	3本

耐 力 柱－梁

スプルス集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断耐力 (kN)	8.1	26.4	39.6	48.0
短期基準(逆)せん断耐力 (kN)	7.3	17.5	22.5	25.8
短期基準引張耐力 (kN)	12.7	23.5	24.3	33.4
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	2.3	4.4	4.5	6.3

耐 力 梁－梁

スプルス集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断耐力 (kN)	8.0	16.9	29.5	36.4
短期基準(逆)せん断耐力 (kN)	7.8	15.6	24.7	28.9
短期基準引張耐力 (kN)	12.5	27.5	30.0	30.7
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	2.3	5.1	5.6	5.7

表中の数値：(一財)日本建築センター性能評価
※試験時使用木材規格
柱 材／寸法：105×105 樹種：スプルス同一等級構成構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：105×105～330 樹種：スプルス対称異等級構成構造用集成材 E105-F300

耐 力 柱－梁

スギ集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断耐力 (kN)	6.0	22.8	31.3	40.5
短期基準(逆)せん断耐力 (kN)	5.7	15.7	18.0	17.8
短期基準引張耐力 (kN)	10.4	22.0	25.4	32.3
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	1.9	4.1	4.7	6.0

耐 力 梁－梁

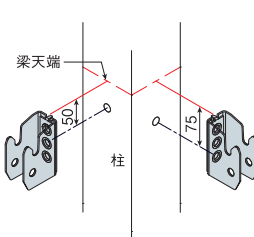
スギ集成材

	TCW-10	TCW-18	TCW-24	TCW-33
短期基準せん断耐力 (kN)	6.3	15.8	25.5	34.3
短期基準引張耐力 (kN)	13.1	20.1	25.8	29.1
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	2.4	3.7	4.8	5.4

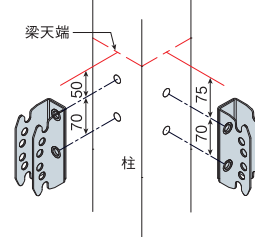
表中の数値：(株)タツミ社内試験結果
※試験時使用木材規格
柱 材／寸法：105×105 樹種：スギ同一等級構成構造用集成材 E65-F255
横架材／寸法：105×105～330 樹種：スギ対称異等級構成構造用集成材 E65-F225

荷重期間における基準耐力の算出について
短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中長期：0.715、長期：0.55
出典(一社)日本建築学会：木質構造設計規準・同解説―許容応力度・許容耐力設計法―

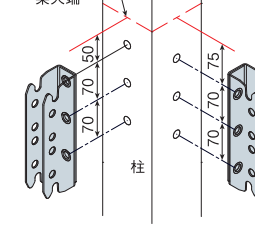
■基本取り付け位置



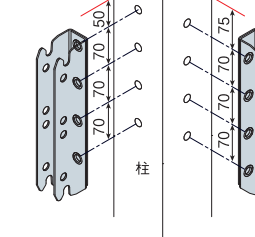
TCW-10
※金物天端は梁天端より2.5mm下がり



TCW-18
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり



TCW-24
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり



TCW-33
※金物天端は梁天端より30.5mm下がり

Tec-One Next TN高耐力梁受金物

テックワンは「NEXT」ステージへ。TN高耐力梁受金物 特許第7348670

他の梁受金物と互換性を持ち、他の梁受金物より高耐力な梁受金物です。

中・大規模建築物に木造が採用されることが多くなる中で、接合部の応力が大きくなり、今までの金物で対応できない場合は製作金物を設計、製作して対応しなければなりませんでした。

そこで他の梁受金物との併用も簡易にできる高耐力な梁受金物を考案し、金物のコンパクト化、設計のしやすさを実現しました。



TN-18
対応梁成：180mm～



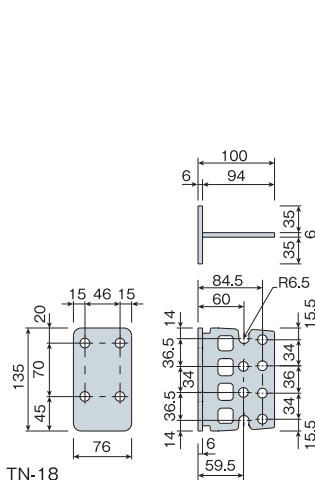
TN-24
対応梁成：240mm～



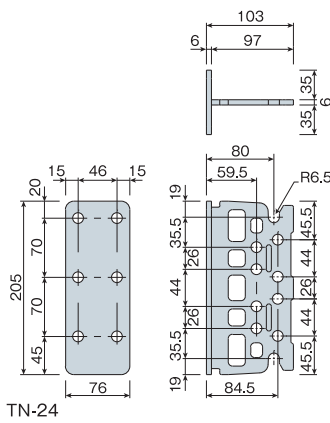
TN-33
対応梁成：330mm～

■寸法

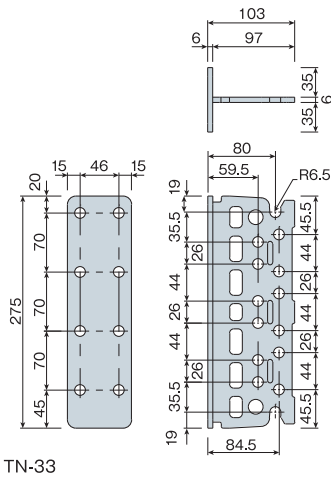
※指示無き穴径はφ13



TN-18



TN-24



TN-33

TN高耐力梁受金物 TN

用 途

- 構造部材(柱材や横架材など)を接合する際に使用します。

特 長

- 他の梁受金物との併用が可能です。
 - 材幅120mm から対応可能です。
 - M12 ボルトとφ12 ドリフトピンによる接合で他の梁受金物の接合具と共通です。
 - 金物出幅が103mmと、製作金物に比べてコンパクトになっています。
 - 梁成390mm以上は多段使いにて対応できます。
- ※技術資料参照

施工方法

- ① ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
 - ② 横架材の仕口には所定の位置に予めドリフトピンを打ち込んでおきます。(先行ピン) ※
- ※先行ピンを正しく打ち込むことにより、横架材を落とし込む際の落下防止になります。
- ③ 横架材を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
- ※仕口から遠い列のドリフトピンから打ち込むことを推奨します。

梁受金物とパイプ金物の納まり

当該階柱がある場合または柱継ぎの場合で、TN高耐力梁受金物とパイプ金物を取り付ける際は、パイプ金物を2列で配置する必要があります。

※技術資料参照

サ イ ズ	TN-18：100×76×135mm	TN-24：103×76×205mm	TN-33：103×76×275mm
材 質	SS400(JIS G 3101)		
部材基本寸法	柱・束材：120mm角以上 横架材：幅120mm以上、梁せい180mm～		
表面処理	カチオン電着塗装		

使用接合具（M12ボルト：MB又はMZ45）

	TN-18	TN-24	TN-33
柱 側	M12ボルト(別売品)	4本	4本
横架材側	ドリフトピン(別売品)	4本	5本

耐 力 柱－梁	オウシュウアカマツ集成材		
	TN-18	TN-24	TN-33
短期基準せん断耐力(kN)	38.8	48.6	77.2
短期基準(逆)せん断耐力(kN)	27.4	43.9	73.5
短期基準引張耐力(kN)	35.9	43.3	56.6
存在接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	6.7	8.1	10.6

耐 力 梁－梁	オウシュウアカマツ集成材		
	TN-18	TN-24	TN-33
短期基準せん断耐力(kN)	33.2	38.4	67.2
短期基準(逆)せん断耐力(kN)	—	—	—
短期基準引張耐力(kN)	34.2	37.9	57.3
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	6.4	7.1	10.8

表中の数値：ハウスプラス確認検査(株)試験結果
※試験時使用木材規格 柱 材／寸法：120×120 樹種：オウシュウアカマツ 同一等級構成構造用集成材 E95-F315
横架材／寸法：120×180～330 樹種：オウシュウアカマツ 対称異等級構成構造用集成材 E105-F300

2段使い 耐力 柱－梁	オウシュウアカマツ集成材			
	TN-24+18	TN-33+18	TN-33+24	TN-33+33
短期基準せん断耐力(kN)	89.0	110.5	118.7	145.6
短期基準(逆)せん断耐力(kN)	68.1	TN-33と同値	TN-33と同値	TN-33と同値
短期基準引張耐力(kN)	75.4	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	14.2	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値

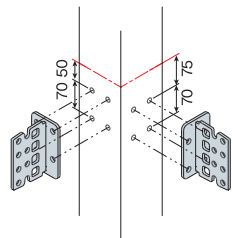
2段使い 耐力 梁－梁	オウシュウアカマツ集成材			
	TN-24+18	TN-33+18	TN-33+24	TN-33+33
短期基準せん断耐力(kN)	80.8	107.4	117.3	124.1
短期基準引張耐力(kN)	69.8	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値
接合部倍率(引張耐力÷5.3kN)	13.1	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値	TN-24+18と同値

表中の数値：ハウスプラス確認検査(株)試験結果
※試験時使用木材規格 柱 材／寸法：120×120 樹種：オウシュウアカマツ 同一等級構成構造用集成材 E95-F315
梁 材／寸法：120×180～660 樹種：オウシュウアカマツ 対称異等級構成構造用集成材 E105-F300

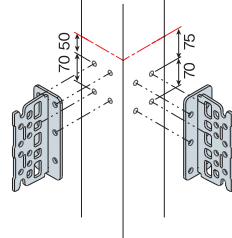
両引き耐力		
製品名	短期基準引張耐力(kN)	接合形式
TN-18	52.6	両引き(梁－柱－梁) 柱・梁：オウシュウアカマツ集成材
TN-24	60.2	
TN-33	87.1	
TN-24+TN-18	101.1	

表中の数値：ハウスプラス確認検査(株)及び(株)タツミ社内試験結果
※試験時使用木材規格 柱 材／寸法：120×120 樹種：オウシュウアカマツ 同一等級構成構造用集成材 E95-F315
梁 材／寸法：120×180～390 樹種：オウシュウアカマツ 対称異等級構成構造用集成材 E105-F300

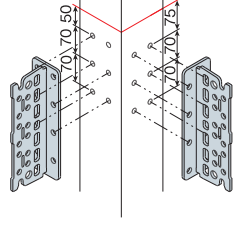
■基本取り付け位置



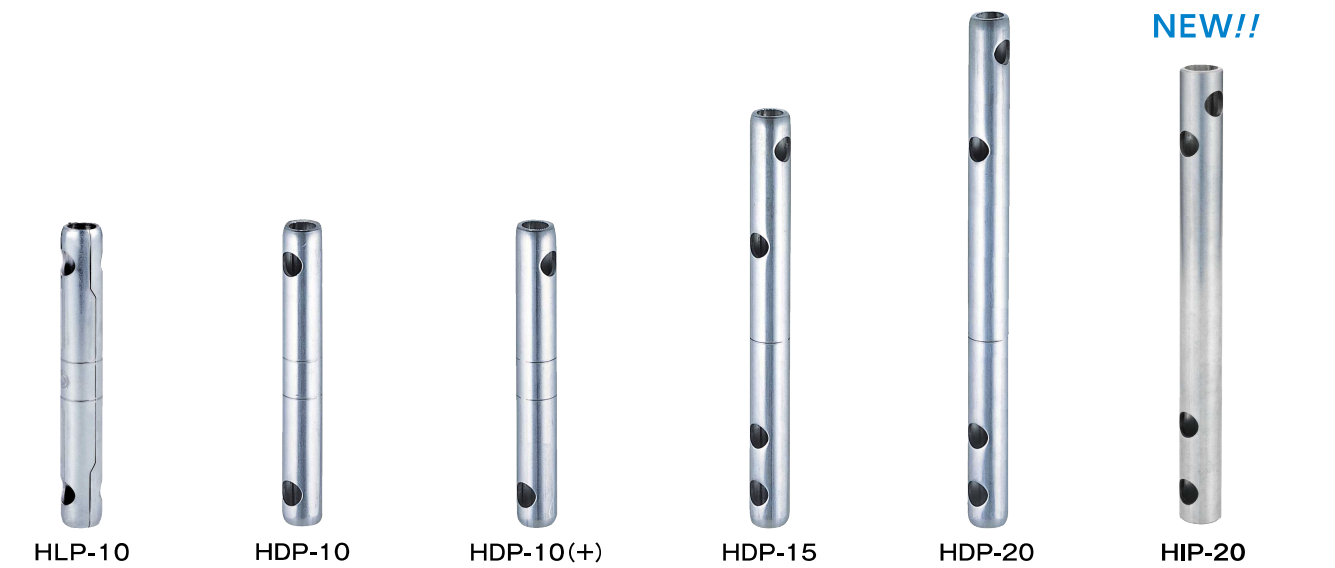
TN-18
※金物は梁天端より30.5mm下がり



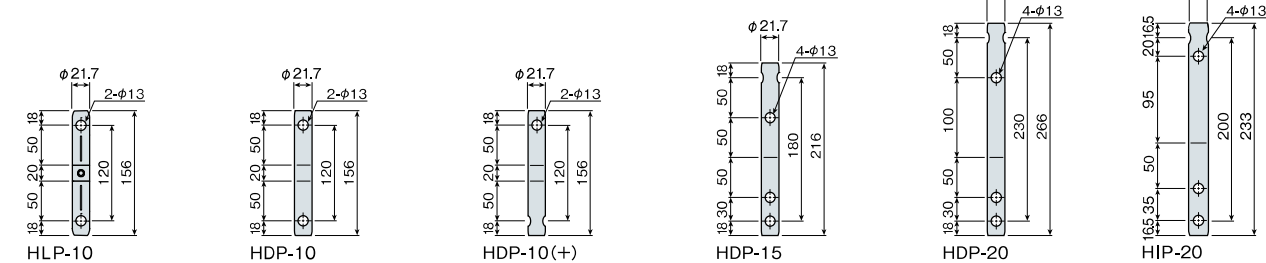
TN-24
※金物は梁天端より30.5mm下がり



TN-33
※金物は梁天端より30.5mm下がり



■ 寸法



用 途

- ホゾと引寄せ金物の代わりに横架材と柱材の接合に使用します。

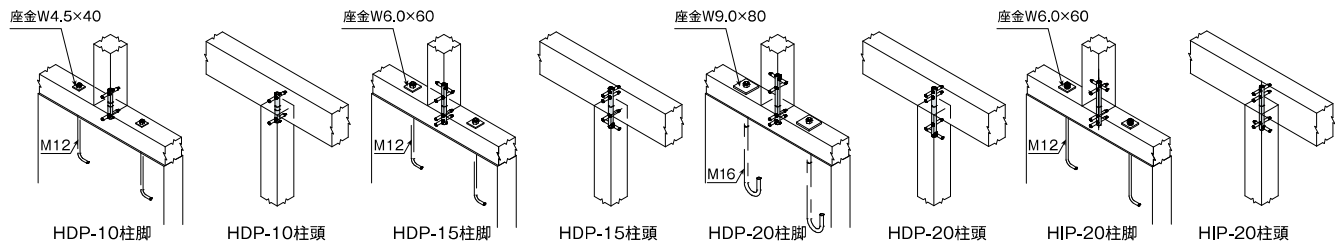
特 長

- ドリフトピンを使用して簡単に緊結できます。
- ボルトを使用して梁受金物とも取り合います。

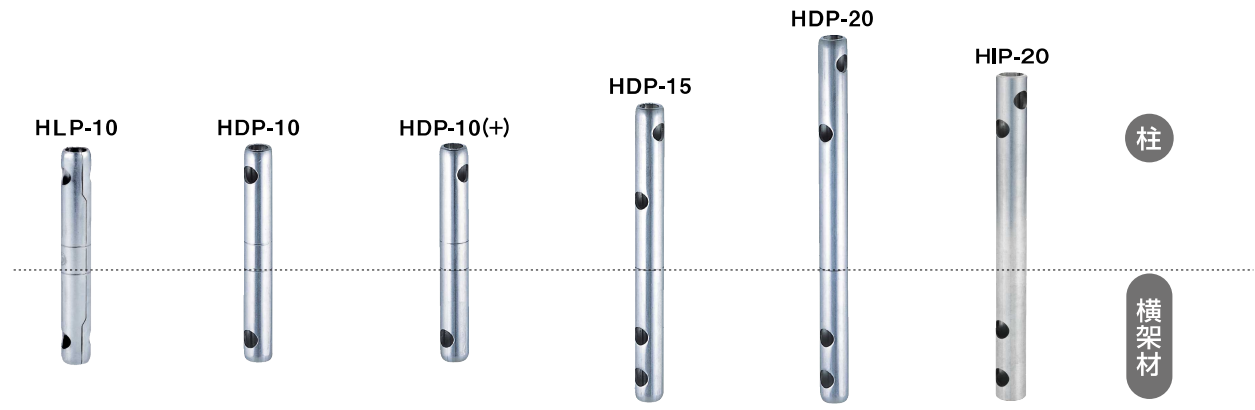
施工方法

- ①ドリフトピン(場合によってはボルト)にて横架材に金物を取り付けます。
- ②柱頭の場合は、柱頭に横架材を落とし込んだ後、ドリフトピンを打ち込んで固定します。
- ③柱脚の場合は、横架材に柱を立てて、柱脚にドリフトピンを打ち込んで固定します。

■ 納まり例



NEW!!



耐 力				
製品名	接合形式	短期基準耐力(kN)		試験時使用木材規格
		引張	せん断	
HLP-10	中柱	10.5	6.7	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
	隅柱	6.5	5.1	
	隅角部	8.7		
HDP-10	中柱	10.0	7.2	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
	隅柱	5.2	5.6	
	隅角部	9.2		
HDP-10(+)	中柱	10.0	7.2	
	隅柱	5.2	5.6	
	隅角部	9.2		
HDP-15	中柱	17.4	6.9	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
HDP-20	中柱	25.5	6.3	柱：スギKD材 E50 横架材：スギKD材 E50
	隅柱	10.9	4.0	
	隅角部	17.6		
HIP-20	中柱	23.4	5.6	柱：スギKD材 無等級 横架材：スギKD材 無等級
	隅柱	10.1	5.6	
	隅角部	15.4		

表中の数値：(一財)建材試験センター／ハウスプラス確認検査(株)試験データ及び(株)タツミ社内試験結果
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm 横架材：幅=105mm せい=105mm(梁H記載あるものは除く)
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出
※土台部において、隅柱・隅角でホールダウンワッシャー以外(たとえば、Zマーク座金または同等品など)を使用する場合は「めり込み防止プレート仕様」の耐力値とする(HIP-20以外)

告示第1460号第二号表三(HDP)中柱						
告示表3	N 値	柱・横架材(スギKD材)				
		HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-15	HIP-20
(い)	0					
(ろ)	0.65					
(は)	1.0					
(に)	1.4					
(ほ)	1.6					
(へ)	1.8	(1.9)	(1.8)	(1.8)		
(と)	2.8			(3.2)		
(ち)	3.7					(4.4)
(り)	4.7	×	×	×	(4.8)	×
(ぬ)	5.6				×	

() 内の数値は金物の N 値

告示第1460号第二号表三(HDP)隅柱						
告示表3	N 値	柱・横架材(スギKD材)				
		HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-15	HIP-20
(い)	0					
(ろ)	0.65		(0.9)	(0.9)		
(は)	1.0	(1.2)				
(に)	1.4					
(ほ)	1.6					
(へ)	1.8					
(と)	2.8	×	×	×		
(ち)	3.7					
(り)	4.7				×	×
(ぬ)	5.6					

() 内の数値は金物の N 値

※土台部ではホールダウンワッシャーを使用してください。

告示第1460号第二号表三(HDP)隅角柱						
告示表3	N 値	柱・横架材(スギKD材)				
		HLP-10	HDP-10	HDP-10(+)	HDP-15	HIP-20
(い)	0					
(ろ)	0.65					
(は)	1.0					
(に)	1.4					
(ほ)	1.6	(1.6)	(1.7)	(1.7)		
(へ)	1.8					
(と)	2.8					
(ち)	3.7	×	×	×		
(り)	4.7				×	×
(ぬ)	5.6					

() 内の数値は金物の N 値

※土台部ではホールダウンワッシャーを使用してください。

ホゾパイプ (GPタイプ) 加工φ27

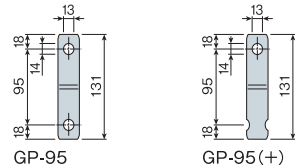


GP-95



GP-95(+)

■寸法



用 途

- ホゾと引寄せ金物の代わりに横架材と柱材の接合に使用します。

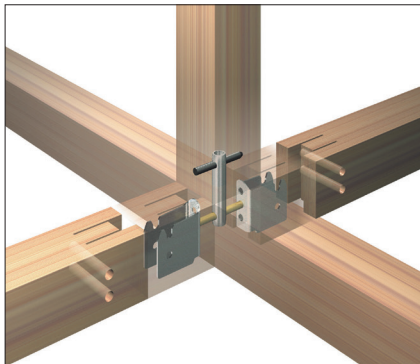
特 長

- ドリフトピンを使用して簡単に緊結できます。
- ボルトを使用して梁受金物とも取り合います。

施工方法

- ①ドリフトピン(場合によってはボルト)にて横架材に金物を取り付けます。
- ②柱を立てて、柱脚にドリフトピンを打ち込んで固定します。
- ③上梁を落とし込んで、柱頭のドリフトピンを打ち込んで固定します。

■納まりイメージ



サ イ ズ	GP-95 : φ26.5×131mm	GP-95(+): φ26.5×131mm
材 質	STK400 (JIS G 3444)	
表面処理	新溶融めっき	
梱 包	GP-95 : 50本／ケース	GP-95(+): 50本／ケース

使用接合具 (M12ボルト: MB又はMZ45)			
		GP-95	GP-95(+)
柱 側	ドリフトピン(別売品)	1本	1本
横架材側	ドリフトピンまたはM12ボルト(別売品)	1本	1本

耐 力				
製品名	接合形式	短期基準耐力(kN)		試験時使用木材規格
		引張	せん断	
GP-95	中柱	9.8	6.2	柱: スギKD材 E50 横架材: スギKD材 E50
	隅柱	5.3	4.7	
	隅角部	7.5	4.7	
GP-95(+)	中柱	9.8	6.2	柱: スギKD材 E50 横架材: スギKD材 E50
	隅柱	5.3	4.7	
	隅角部	7.5	4.7	

表中の数値: ハウスプラス確認検査(株)試験結果

※1. 試験時使用材寸法 柱材: □105mm 横架材: 幅=105mm せい=105mm(梁H記載あるものは除く)

※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出

告示第1460号第二号表三(GP)中柱			
告示表3	N 値	柱・横架材(スギKD材)	柱・横架材(スギKD材)
		GP-95	GP-95(+)
(い)	0		
(ろ)	0.65		
(は)	1.0		
(に)	1.4		
(ほ)	1.6	(1.8)	(1.8)
(へ)	1.8		
(と)	2.8		
(ち)	3.7	×	×
(り)	4.7		
(ぬ)	5.6		

() 内の数値は金物の N 値

告示第1460号第二号表三(GP)隅柱			
告示表3	N 値	柱・横架材(スギKD材)	柱・横架材(スギKD材)
		GP-95	GP-95(+)
(い)	0		
(ろ)	0.65		
(は)	1.0	(1.0)	(1.0)
(に)	1.4		
(ほ)	1.6		
(へ)	1.8		
(と)	2.8	×	×
(ち)	3.7		
(り)	4.7		
(ぬ)	5.6		

() 内の数値は金物の N 値

※ホールダウンワッシャーを使用してください。

告示第1460号第二号表三(GP)隅角柱			
告示表3	N 値	柱・横架材(スギKD材)	柱・横架材(スギKD材)
		GP-95	GP-95(+)
(い)	0		
(ろ)	0.65		
(は)	1.0		
(に)	1.4	(1.4)	(1.4)
(ほ)	1.6		
(へ)	1.8		
(と)	2.8		
(ち)	3.7	×	×
(り)	4.7		
(ぬ)	5.6		

() 内の数値は金物の N 値

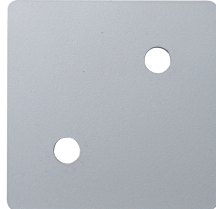
※ホールダウンワッシャーを使用してください。

高耐力パイプ式柱頭柱脚金物 HPB-46 Tタイプ(梁・柱接合用)／+タイプ(柱・梁・柱接合用)



HPB-46

●付属品

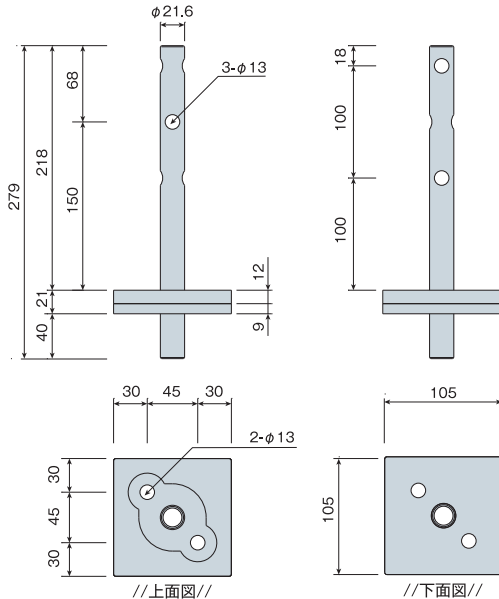


専用座金



専用ワッシャーM12用

■寸法



用 途

- 高い引抜耐力を必要とする柱と梁の接合部に使用します。
- Tタイプは梁の上または下に取り付けます。
- +タイプは梁の上下に取り付けます。

特 長

- パイプ金物よりも高い引抜耐力があります。
- 梁成180～570と幅広い梁成に対応しています。
- 柱仕口の加工はホールダウンパイプと同じφ22となります。
- TRS HPB専用めり込み防止プレートt16(別売品)を入れられます。

施工方法

- ①Tタイプの場合は金物を挿入しボルトをさし、座金を入れナットを締めます。
 - ②+タイプの場合は上下とも金物を付け、六角ボルトとナットで固定します。
- ※ボルトネジ部が金物より突出する場合は、付属の専用ワッシャーM12用をボルト頭側に挿入して調整してください。

■納まりイメージ



告示第1460号第二号表三(HPB)			
告示表3	N 値	柱・横架材(スプルス集成材)	柱・横架材(スギ集成材)
		HPB-46	HPB-46
(い)	0		
(ろ)	0.65		
(は)	1.0		
(に)	1.4		
(ほ)	1.6		
(へ)	1.8		
(と)	2.8		
(ち)	3.7		
(り)	4.7		
(ぬ)	5.6	(8.6)	(5.4)

() 内の数値は金物の N 値

サ イ ズ	105×105×279mm
材 質	S40C (JIS G 4051) SS400 (JIS G 3101)
表面処理	ラスパートノンクロム
セット内容	《Tタイプ》本体: 1個 専用座金: 1枚 専用ワッシャーM12用: 4枚※ 《+タイプ》本体: 2個 専用ワッシャーM12用: 4枚※
梱 包	Tタイプ 1セット／ケース +タイプ 1セット／ケース

※ M12ボルト(別売品)を施工した際にボルトネジ部が金物より突出する場合に使用します。

使用接合具			
		Tタイプ	+タイプ
柱 側	ドリフトピン(別売品)	3本	6本
横架材側	Zマーク六角ボルトM12(ナット付)(別売品)	2本	2本

耐 力					
製品名	接合形式	短期基準耐力(kN)			試験時使用木材規格
		引張	せん断	圧縮	
HPB-46 梁H=180 以上	梁貫通・ 柱脚柱頭	28.7	5.0	39.5	柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255 横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225
		46.1		43.4	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300

表中の数値: ハウスプラス確認検査(株)／(株)タツミ社内試験結果

※1. 試験時使用材寸法 柱材: □105mm 横架材: 幅=105mm せい=180mm

※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出

※3. HPB専用めり込み防止プレートt16を使用する場合は、ボルト長さが異なります。

HPB専用めり込み防止プレートt16 1枚: 下表+15mm

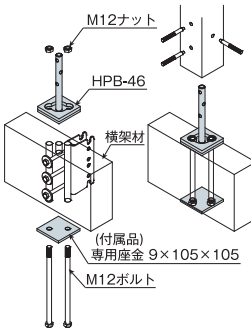
HPB専用めり込み防止プレートt16 2枚: 下表+30mm

■梁成に対するボルト長さ

《Tタイプ》

梁せい ボルト長さ

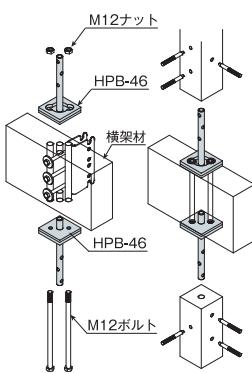
180	210
210	240
240	270
270	300
300	330
330	360
360	390
390	420
420	450
450	480
480	510
510	540
540	570
570	600



《+タイプ》

梁せい ボルト長さ

180	210
210	240
240	270
270	300
300	330
330	360
360	390
390	420
420	450
450	480
480	510
510	540
540	570
570	600

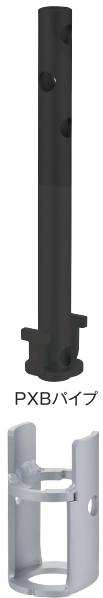


アンカーボルト直結パイプ式柱脚金物 PXB

NEW!!

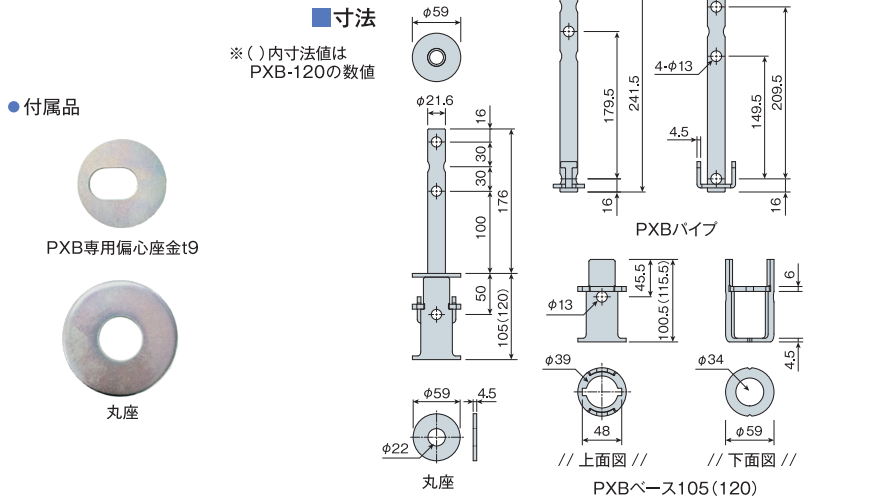


PXB-105(120)



PXBパイプ

PXBベース105(120)



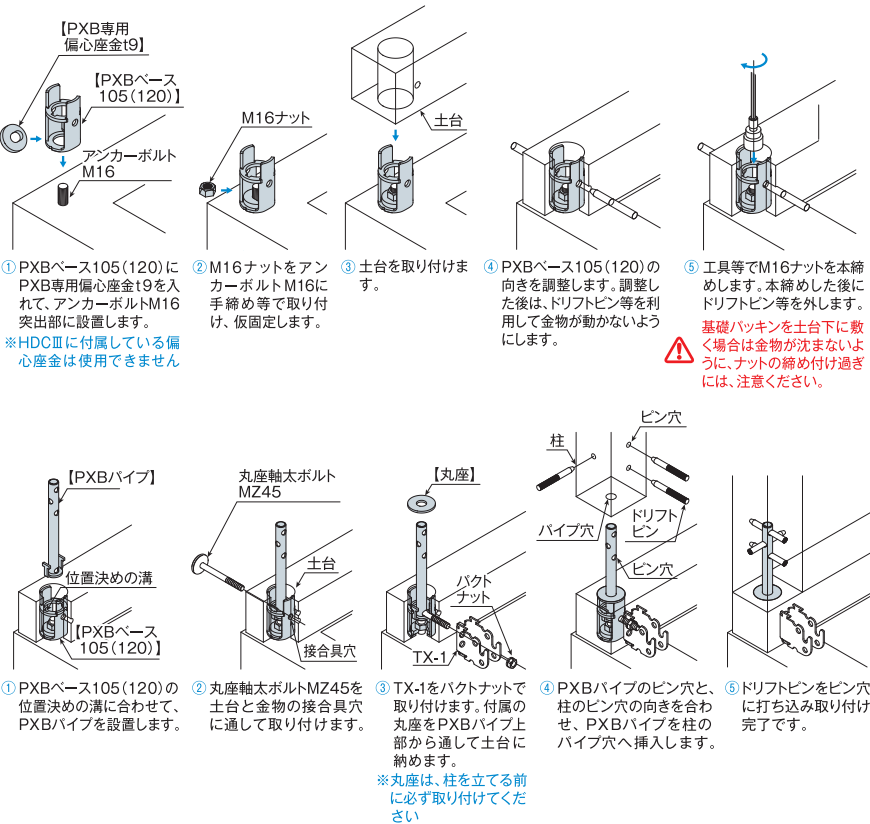
材 質	SS400 (JIS G 3101)	S40C (JIS G 4051)	SM490 (JIS G 3106)
表面処理	ラスパートノンクロム・カチオン電着塗装・電気亜鉛めっき (JIS H 8610) 三価有色クロメート		
セット内容	PXBベース・PXBパイプ・丸座・PXB専用偏心座金t9 各1点		
梱 包	5セット/ケース		

使用接合具 (M12ボルト: MB又はMZ45)			
柱 側	ドリフトピン3本 (別売品)		
土 台 側	ドリフトピンまたはM12ボルト1本 (別売品)		
基 礎	アンカーボルトM16 (別売品)		

耐 力					
製品名	接合形式	短期基準耐力 (kN)			試験時使用木材規格
		引張	せん断	圧縮	
PXB	アンカーボルト直結	土台部	32.7	3.0	柱: スギKD材 無等級
			37.4		柱: スギ同一等級構成集成材 E65-F255
			41.3		柱: スプルース同一等級構成集成材 E95-F315

表中の数値: ハウスプラス確認検査(株) / (株) タツミ社内試験結果
※1. 試験時使用木材寸法 柱材: □105mm 横架材: 幅=105mm せい=105mm (梁H記載あるものは除く)
※2. アンカーボルトの材料強度等にご注意ください。 [TRS 異形クランクアンカーボルトM16 \(HTK-305\) 推奨](#)
※3. N値に換算する場合は耐力値÷5.3 (1960N×2.7m) を基本に算出
※4. 引張/せん断の耐力値はめり込み防止プレート (12mm厚以下) の使用有無を問わず同じ
※5. 「TRS めり込み防止プレートt12」を併用した場合の圧縮耐力は技術資料参照

■施工方法 M16ナット締め付け時推奨工具「ビット交換式ソケットアダプター」51ページ参照



用 途

- 独立柱の柱脚の接合部に使用します。

特 長

- ダブルベース部の高さが55mmと低いため、床仕上げ面より下に金物が隠れやすい高さです。
- アンカーボルトM12を使用し、アンカーボルト用のルーズホール穴は±6mmまで対応できます。
- 柱受部品を交換することで90角・平柱にも対応できます。
- 柱仕口の加工はホールダウンパイプと同じφ22となります。

施工方法

- ① LB本体をアンカーボルトM12にセットします。
- ② 下から順にM12用偏心座金・M12ワッシャー・ナットにて留め付けます。
- ③ 柱受部品（柱断面に応じたもの）を被せます。
- ④ 柱をパイプ部に挿入し仕様に応じた本数のドリフトピン（別売品）を打ち込みます。

※使用するドリフトピンについては技術資料を参照ください。

● 付属品

M12用偏心座金

M12ワッシャー

LB本体

P-90

C-140

C-100S

C-100L

LB+P90

LB+C140

LB+C100S

LB+C100L

材 質		STK500(JIS G 3444) SS400(JIS G 3101)						
表面処理		ラスパートノンクロム						
セ ッ ト 内 容	LB+P90	LB本体・P-90・M12用偏心座金・M12ワッシャー	各1点					
	LB+C 140	LB本体・C-140・M12用偏心座金・M12ワッシャー	各1点					
	LB+C 100S	LB本体・C-100S・M12用偏心座金・M12ワッシャー	各1点					
	LB+C 100L	LB本体・C-100L・M12用偏心座金・M12ワッシャー	各1点					
梱 包		1セット／ケース						
※ドリフトピン、アンカーボルトM12は別売品です。								
耐 力								
製品名		接合形式	短期基準耐力(kN)	試験時使用木材規格				
			引張せん断圧縮					
LB	P-90	アンカーボルト直結	独立柱部	6.3 ドリフトピン1本	3.8	94.7	柱：スギKD 無等級 柱断面 90×90	
	C-140					159.9	柱：スギKD 無等級 柱断面 150×150	
	C-100S					108.7	柱：スギKD 無等級 柱断面 105×135	
	C-100L					145.7	柱：スギKD 無等級 柱断面 105×210	
	P-90 2個配置					18.3 ドリフトピン2本	184.8	柱：スギKD 無等級 柱断面 105×210
	C-100S 2個配置						262.5	柱：スギKD 無等級 柱断面 105×270
表中の数値：ハウスプラス確認検査(株)及び(株)タツミ社内試験結果								
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm								
※2. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出								

■ 寸 法

■ 施工方法

■ 金物配置方向

		長辺 (mm)					
		90	105	120	135	150	180
短辺 (mm)	90	本体×1: P-90×1	本体×1: P-90×1	本体×1: P-90×1	本体×1: P-90×1		
	105		本体×1: P-90×1	本体×1: P-90×1	本体×1: C-100S×1	本体×1: C-100S×1	本体×1: C-100S×1
	120			本体×1: P-90×1	本体×1: C-100S×1	本体×1: C-100S×1	本体×1: C-100S×1
	135				本体×1: C-100S×1	本体×1: C-100S×1	本体×1: C-100S×1
	150				本体×1: C-140×1	本体×1: C-140×1	本体×1: C-140×1
	180						本体×1: C-140×1

TPB60/TPB80パイプベース

■寸法

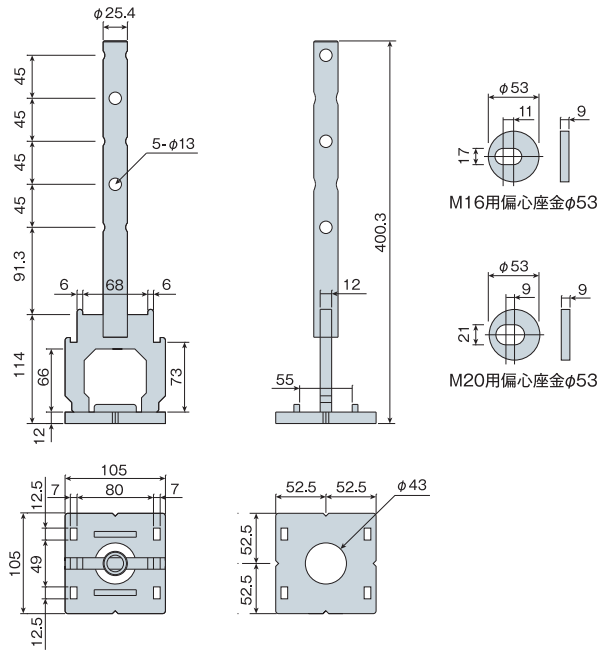
●付属品

【TPB60】

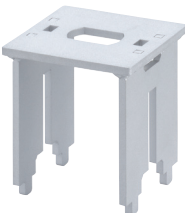
M16用偏心座金φ53

【TPB80】

M20用偏心座金φ53



柱受部品(別売品)



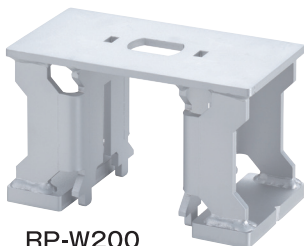
RP-SQ105



RP-SQ140

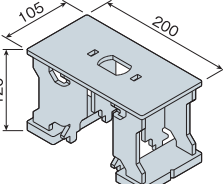
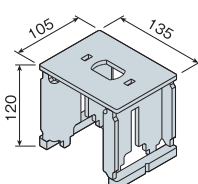
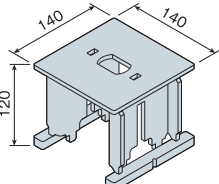
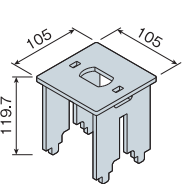


RP-W135



RP-W200

■寸法



用 途

- 高い引抜耐力を必要とする柱脚の接合部に使用します。

特 長

- 高耐力アンカーボルトM16を使用することで60kNの引抜耐力となります。
- 高耐力アンカーボルトM16用のルーズホール穴は±10mm程度です。
- 異形アンカーボルトM20を使用することで80kNの引抜耐力となります。
- 異形アンカーボルトM20用のルーズホール穴は±8mm程度です。
- 柱受部品を変えることで105角～300角、平柱にも対応できます。

施工方法

- ① パイプベースをアンカーボルトにセットします。
- ② 下から順に偏心座金・ナットにて留め付けます。
- ③ 柱受部品(柱断面に応じたもの)を被せます。
- ④ 柱をパイプ部に挿入しドリフトピン(別売品)を打ち込んで固定します。

	パイプベース：105×105×400.3mm	
サ イ ズ	RP-105：105×105×119.7mm	RP-140：140×140×120mm
	RP-135：105×135×120mm	RP-200：105×200×120mm
材 質	SM490(JIS G 3106) SS400(JIS G 3101) S45C(JIS G 4051)	
表面処理	パイプベース：カチオン電着塗装 柱受部品：ラスパートノングロム	
セット内容	《TPB60パイプベース》パイプベース・M16用偏心座金φ53 各1点 《TPB80パイプベース》パイプベース・M20用偏心座金φ53 各1点	
梱 包	TPB60パイプベース：2セット/ケース TPB80パイプベース：2セット/ケース 各柱受部品：1個/ケース	

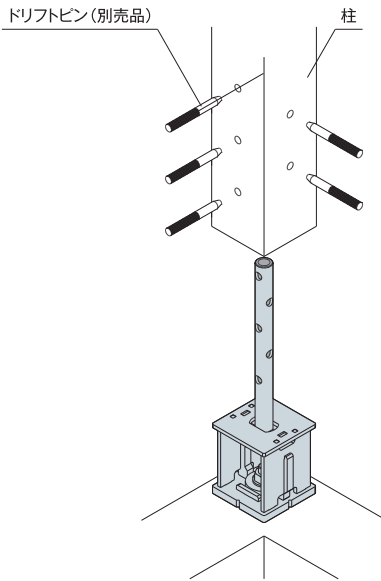
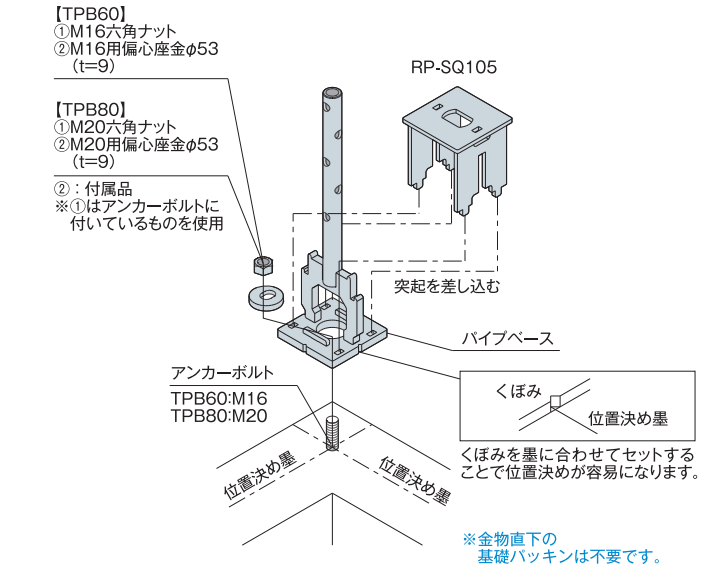
※ドリフトピン、アンカーボルトは別売品です。
TRS高耐力アンカーボルトM16、TRS異形アンカーボルトM20推奨

使用接合具			
TPB60		TPB80	
金物取付	高耐力アンカーボルトM16 1本(別売品)	異形アンカーボルトM20 1本(別売品)	
柱 取 付	ドリフトピン5本(別売品)	ドリフトピン5本(別売品)	

耐 力				
製品名	接合形式	短期基準耐力(kN)		試験時使用木材規格
		アンカーボルト	引張	
TPB	アンカーボルト直結 独立柱脚	TRS高耐力アンカーボルトM16	61.5	柱：スプルス同一等級構成集成材 E95-F315
		TRS異形アンカーボルトM20	83.0	柱：スプルス同一等級構成集成材 E95-F315

表中の数値：ハウスプラス住宅保証(株)試験結果
※1. 試験時使用木材寸法 柱材：□105mm
※2. 圧縮耐力は技術資料参照
※3. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出

■納まり図



■組み合わせ例

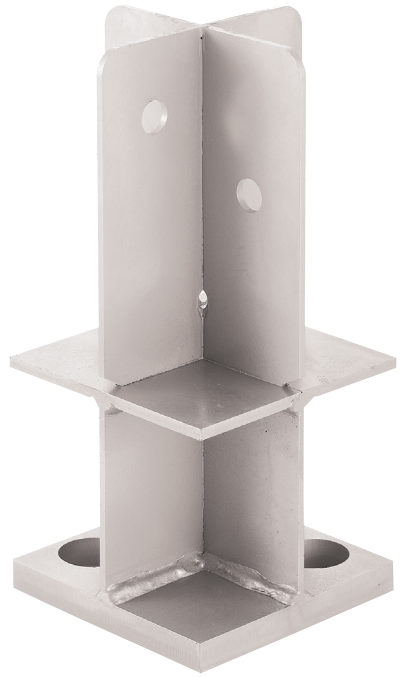


■柱断面と柱受部品の組み合わせ一例

※使用ドリフトピンについては技術資料を参照
※長短辺180mmを超える断面の組み合わせについては技術資料を参照

		長辺(mm)				
		105	120	135	150	180
短辺(mm)	105	TPB×1:RP-SQ105×1 	TPB×1:RP-SQ105×1 	TPB×1:RP-W135×1 	TPB×1:RP-W135×1 	TPB×1:RP-W135×1
	120		TPB×1:RP-SQ105×1 	TPB×1:RP-W135×1 	TPB×1:RP-W135×1 	TPB×1:RP-W135×1
	135			TPB×1:RP-W135×1 	TPB×1:RP-W135×1 	TPB×1:RP-W135×1
	150				TPB×1:RP-SQ140×1 	TPB×1:RP-SQ140×1
	180					TPB×1:RP-SQ140×1

高耐カスリット式独立柱脚金物 PBH-63



PBH-63(105・120用)

用 途

- 高い引抜耐力を必要とする柱脚の接合部に使用します。

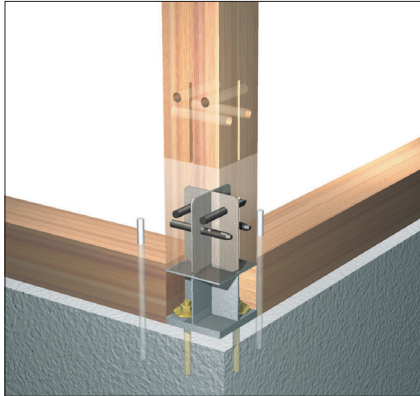
特 長

- アンカーボルトの性能をフルに発揮する高い引抜性能があります。
- アンカーボルト用ルースホール穴は±5mmです。
- 柱脚のドリフトピンは専用ドリフトピンを使用します。

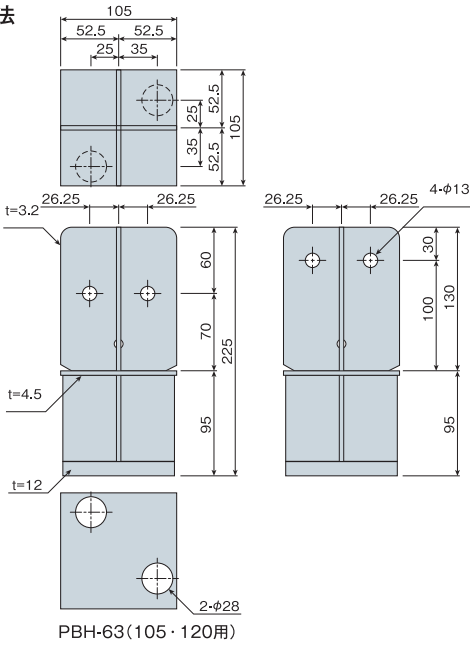
施工方法

- ①基礎の上に置き、アンカーボルトM16に緊結します。
- ②柱を立てて、柱脚に専用ドリフトピンを4本打ち込んで固定します。

■納まりイメージ



■寸法



●付属品

専用ドリフトピン(S45C)
(105用・L103 120用・L118)



アジャスター座金



M16用ワッシャー

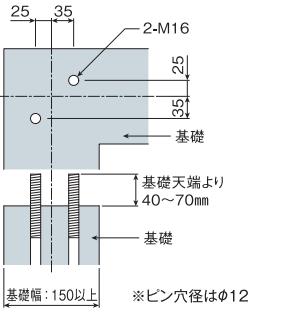
サ イ ズ	PBH-63(105・120用)：105×105×225mm	
材 質	SPHC(JIS G 3131) SS400(JIS G 3101)	
表面処理	ラスパートノンクロム	
セット内容	専用ドリフトピン(S45C)：4本 アジャスター座金：2個 M16用ワッシャー：2個	
梱 包	1個／ケース	

使用接合具		
	PBH-63(105用)	PBH-63(120用)
柱	専用ドリフトピン(付属品)	4本
基 礎	アンカーボルトM16(別売品)	2本

耐 力					
製品名	接合形式	短期基準耐力(kN)			試験時使用木材規格
		引張	せん断	圧縮	
PBH-63	アンカーボルト直結 独立柱部	48.4	—	—	柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255
		63.4	14.0	118.6	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315

表中の数値：(一財)建材試験センター／(株)タツミ社内試験結果
※1. 試験時使用材寸法 柱材：□105mm
※2. アンカーボルトの材料強度等にご注意ください。
※3. N値に換算する場合は耐力値÷5.3(1960N×2.7m)を基本に算出

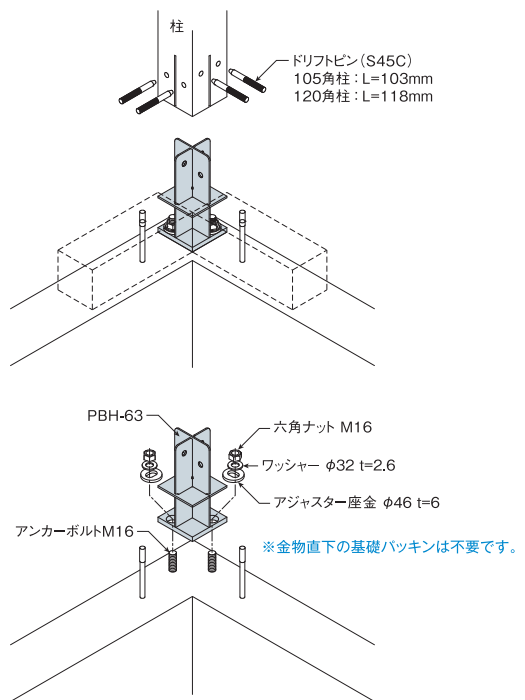
■基礎上面 (アンカーボルトの配置)



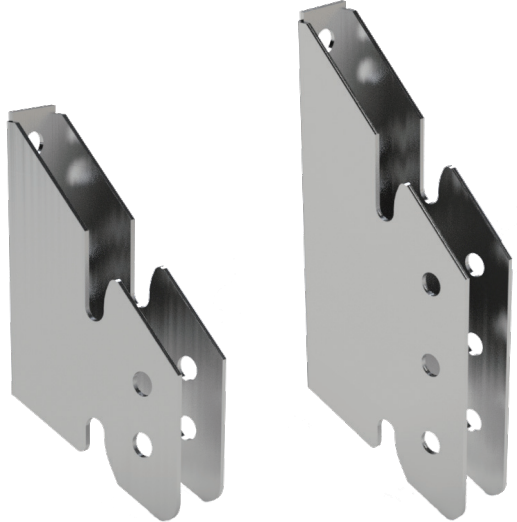
告示第1460号第二号表三(PBH-63)		
告示表3	N 値	柱(スプルース集成材) PBH-63
(い)	0	
(ろ)	0.65	
(は)	1.0	
(に)	1.4	
(ほ)	1.6	
(へ)	1.8	
(と)	2.8	
(ち)	3.7	
(り)	4.7	
(ぬ)	5.6	

()内の数値は金物のN値

■施工方法



登り梁受金物 GUD



GUD-180
対応梁成：180mm
～210mm

GUD-240
対応梁成：240mm
～300mm

用 途

- 4寸～10寸勾配までの登り梁(梁成180・240)の接合部に使用します。

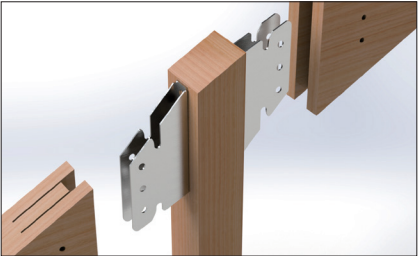
特 長

- 水上用、水下用は同一金物を反転させて使用します。
- 他の梁受金物と同様にボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで施工可能です。

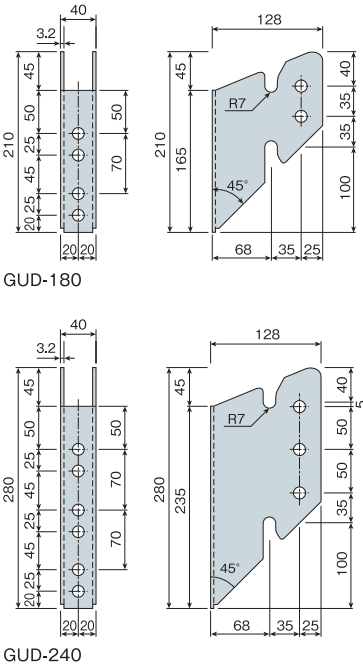
施工方法

- ①ボルトにて柱材や横架材に金物を取り付けます。
 - ②登り梁の仕口には所定の位置に予めドリフトピンを打ち込んでおきます。(先行ピン)※
 - ③登り梁を落とし込んだ後、残りのドリフトピンを打ち込んで固定します。
- ※先行ピンを正しく打ち込むことにより、登り梁を落とし込む際の落下防止になります。

■納まりイメージ



■寸法



サ イ ズ GUD-180：128×40×210mm GUD-240：128×40×280mm

材 質 新溶融めっき銅板

梱 包 GUD-180：12個／ケース GUD-240：10個／ケース

使用接合具 (M12ボルト：MB又はMZ45)

	GUD-180	GUD-240
柱 側	M12ボルト(別売品)	3本
横架材側	ドリフトピン(別売品)	4本

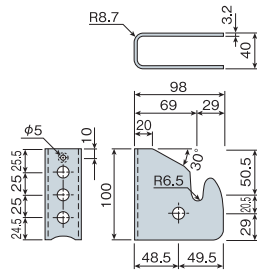
耐 力					
製品名	勾配	接合形式		試験時使用木材規格	
		柱一登り梁接合部	梁一登り梁接合部		
		短期基準せん断耐力 (kN)			
GUD-180	4寸勾配	10.4	—	柱：スギKD材 無等級 横架材：米松KD材 無等級	
	10寸勾配	—	10.7	横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225	
GUD-240	4寸勾配	31.2	—	柱：スギKD材 無等級 横架材：米松KD材 無等級	
	10寸勾配	16.3	—	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300	
	4寸勾配	21.0	16.2	柱：スギ同一等級構成集成材 E65-F255 横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225	
	10寸勾配	32.0	—	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300	
	4寸勾配	29.6	—	柱：スギKD材 無等級 横架材：米松KD材 無等級	
GUD-180	10寸勾配	15.1	—	横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225	
GUD-240	4寸勾配	29.6	—	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300	
	10寸勾配	29.1	—		
製品名	勾配	短期基準逆せん断耐力 (kN)		試験時使用木材規格	
GUD-180	4寸勾配	10.7	—	柱：スギKD材 無等級 横架材：米松KD材 無等級	
	10寸勾配	15.1	—	横架材：スギ対称異等級構成集成材 E65-F225	
GUD-240	4寸勾配	29.6	—	柱：スプルース同一等級構成集成材 E95-F315 横架材：スプルース対称異等級構成集成材 E105-F300	
	10寸勾配	29.1	—		
製品名	勾配	短期基準引張耐力 (kN)	接合部倍率 引張耐力÷5.3kN	短期基準引張耐力 (kN)	接合部倍率 引張耐力÷5.3kN
GUD-180	4寸勾配	15.5	2.9	17.9	3.3
	10寸勾配	20.7	3.9	—	—
GUD-240	4寸勾配	21.5	4.0	34.9	6.5
	10寸勾配	25.6	4.8	—	—

表中の数値：(一財)建材試験センター／(株)タツミ社内試験結果
※ 試験時使用材寸法 柱材：□105mm 横架材：幅=105mm せい=180/240mm
荷重期間における基準耐力の算出について
短期基準耐力：1.0とした場合、中短期：0.8、中長期：0.715、長期：0.55
出典(一社)日本建築学会：木質構造設計規準・同解説―許容応力度・許容耐力設計法―



TK-10

■寸法



用 途

- 火打ち梁と横架材を接合する際に使用します。

特 長

- 梁に片木大入れを作らないので欠損が少ないです。
- ボルトとドリフトピンによる単純な組み合わせで施工可能です。

施工方法

- ①ボルトにて横架材に金物を取り付けます。
- ②火打ち梁を取り付けた後、ドリフトピンを打ち込んで固定します。

サ イ ズ 98×100×40mm

材 質 新溶融めっき鋼板

梱 包 TK-10：30個／ケース

使用接合具（M12ボルト：MB又はMZ45）

金物取り付け M12ボルト2本（別売品）

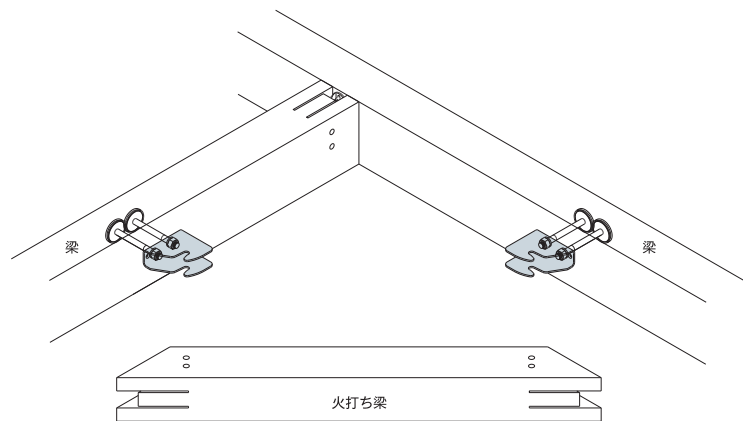
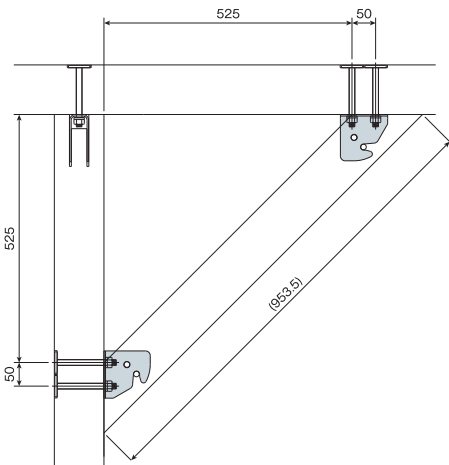
火打ち梁取り付け ドリフトピン2本（別売品）

耐 力

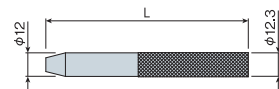
仕様規定の木製火打と同等以上

※ハウスプラス確認検査（株）により仕様規定の木製火打と同等以上の耐力を有するとして性能確認試験済み

■納まり図



■寸法



L：85・95・103・118・130・145・160・175・205

※特注サイズについてはお問い合わせください。

用 途

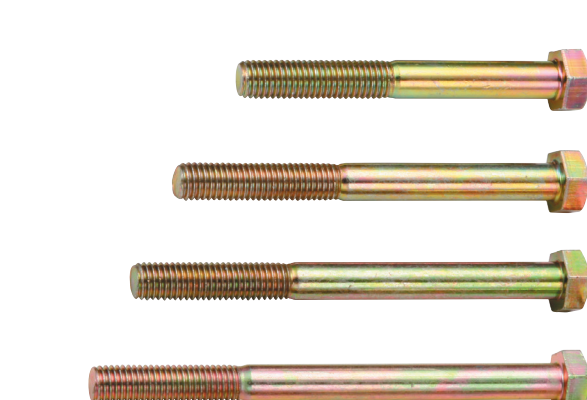
- 各種金物の接合具として使用します。

特 長

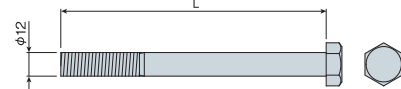
- ローレット部分が木材にめり込むことにより抜きの防止になります。

サ イ ズ	DP-85：φ12×85mm	DP-95：φ12×95mm
	DP-103：φ12×103mm	DP-118：φ12×118mm
	DP-130：φ12×130mm	DP-145：φ12×145mm
	DP-160：φ12×160mm	DP-175：φ12×175mm
	DP-205：φ12×205mm	
材 質	伸線後の引張強さが400N／mm ² を満足する鋼製線材	
表面処理	DP-85・DP-103・DP-130・DP-145・DP-175・DP-205：電気亜鉛めっき（JIS H 8610）Ep-Fe/Zn8/CM2	
	DP-95・DP-118・DP-160：電気亜鉛めっき（JIS H 8610）Ep-Fe/Zn8/CM3	
梱 包	DP-85・95・103・118：100本／ケース	
	DP-130・145・160・175・205：50本／ケース	

※ドリフトピンφ16は102ページ参照



■寸法



L：100・110・120・125・130・135・140・150・160・170・180
190・200・210・220・240・250・270・280・300・330・360・390

※特注サイズについてはお問い合わせください。

用 途

- 各種金物の接合用ボルトとして使用します。

特 長

- 太い軸径（12mm）で金物と木材を正確かつ強固に接合します。

サ イ ズ	M12×L=100・110・120・125・130・135・140・150
	160・170・180・190・200・210・220・240
	250・270・280・300・330・360・390mm
材 質	JIS B 1180 の強度区分4.6を満足する炭素鋼
表面処理	電気亜鉛めっき（JIS H 8610）Ep-Fe/Zn8/CM2
付 属 品	バクトナット：1個／本
梱 包	100・110・120・125・130・135・140・150・160：100本／ケース
	170・180・190・200・210・220・240・250・270・280 300・330・360・390：1本より

※バクトナットは49ページ参照

■ボルト長さについて

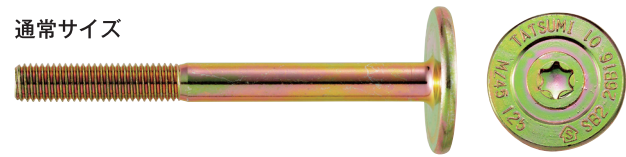
ボルト長さは取り付く材幅に金物・ナット・座金などの厚さを加え、ナットよりネジ山余長：2山程度を確保してください。

■ボルト長さ対照表

ボルト仕様		MB（中ボルト）仕様		座面高 P3.6.7mm	材幅：W	座面高 P3.6.7mm
取合い図		両引き	片引き			
材 幅	90	MB-120		4.5	必要ボルト長さ	ねじ山余長：2山程度
	105	MB-135				
	120	MB-150				
	150	MB-180				
	180	MB-210				
	210	MB-240				
	240	MB-270				
	270	MB-300				
	300	MB-330				
	330	MB-360				
	360	MB-390				

材幅+30mmが最適長さとなります。

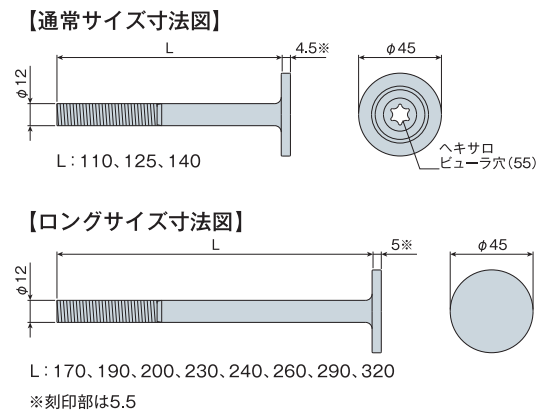
通常サイズ



ロングサイズ



■寸法



用 途

- 各種金物の接合用ボルトとして使用します。

特 長

- L110、125、140まで(公財)日本住宅・木材技術センター性能認定を取得しています。
※ロングサイズは認定対象外
- 座掘りによる断面欠損を最小限に抑えることが可能です。
- 座掘りなしの場合でも、「ザボリくん」を使用すれば座掘り6mmに収めることができます。

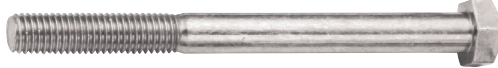
【通常サイズ】

サ イ ズ	M12×L=110・125・140 mm
材 質	JIS B 1180の強度区分4.6または4.8を満足する炭素鋼
表面処理	電気亜鉛めっき (JIS H 8610) Ep-Fe/Zn8/CM2
付 属 品	パクトナット：1個／本
承 認	SB2-26B16-01
梱 包	100本／ケース

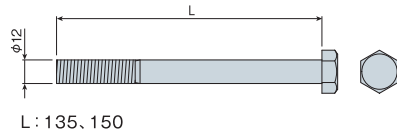
【ロングサイズ】

サ イ ズ	M12×L= 170、200、230、260、290 mm
材 質	JIS B 1180の強度区分4.6または4.8を満足する炭素鋼
表面処理	電気亜鉛めっき (JIS H 8610) Ep-Fe/Zn8/CM2
付 属 品	パクトナット：1個／本
梱 包	170、190、200、230、240、260、290、320：1本より

※パクトナットは49ページ参照



■寸法

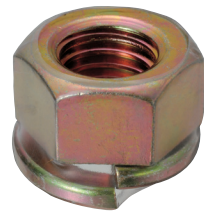


用 途

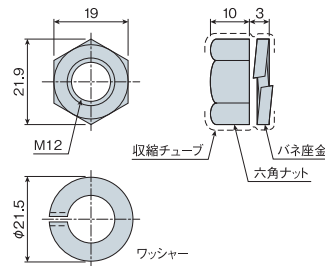
- HDCⅢの収まった土台に対して金物が対面に取り付く場合に使用します。

サ イ ズ

サ イ ズ	M12×L=135・150mm
材 質	JIS B 1180の強度区分8.8または10.9を満足する炭素鋼
表面処理	電気亜鉛めっき (JIS H 8610) Ep-Fe/Zn8/CM1
梱 包	135・150：1本より



■寸法



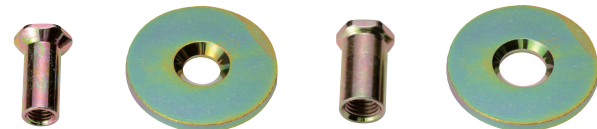
用 途

- 各種金物などの接合具として使用します。

特 長

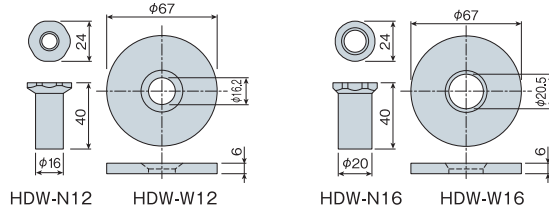
- ナットとスプリングワッシャーが一体式になっているので、紛失やはめ忘れがありません。

サ イ ズ	M12
材 質	JIS B 1181の強度区分4を満足する炭素鋼
表面処理	電気亜鉛めっき (JIS H 8610) Ep-Fe/Zn8/CM2
梱 包	1,200個(100個×12)／ケース



HDW-M12

■寸法



用 途

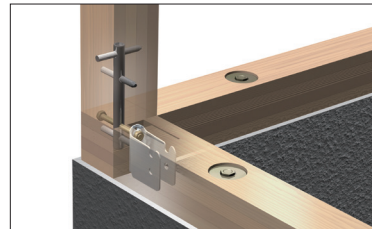
- 土台の浮き上がりを防ぐ際に使用する金物です。

特 長

- 土台部分の欠損を最小限に抑えます。

サ イ ズ	HDW-W12：外径φ67mm	HDW-W16：外径φ67mm
材 質	SS400 (JIS G 3101)	SWCH10R相当 (JIS G 3507-2)
表面処理	電気亜鉛めっき (JIS H 8610) Ep-Fe/Zn8/CM2	
梱 包	HDW-12：60個／ケース	HDW-16：60個／ケース

■使用例



マグネットソケット(12.7角用)



用 途

- ボルトの締め付けに使用します。

特 長

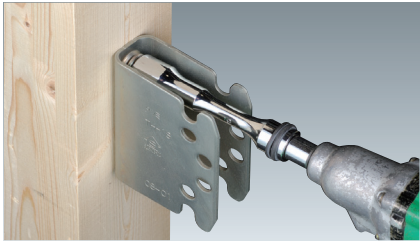
- マグネットが付いているため、ナットが落下する心配がありません。
- テックワン・各種金物の内側のナットを締め付ける際に最適なロングタイプです。

サ イ ズ 差込角：12.7×全長：130mm

梱 包 1個／ケース

※お使いのインパクトレンチの差込角をご確認ください。

■使用例



ザグリキリ



用 途

- 土台材などの座掘り用の工具です。

特 長

- 穴あけサイズの調整可能。
- 穴あけ範囲：φ34mm～φ80mm

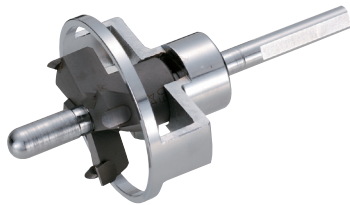
サ イ ズ 取付部：13mm(三面)

梱 包 1個／ケース

■使用例



ザボリくん A・B



用 途

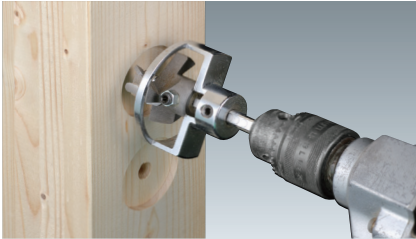
- 丸座軸太ボルトやバネ付座金などに使用する座掘り用の工具です。

特 長

- 電動ドリルに簡単に取り付けることができます。
- 簡単な操作で座掘りの深さが設定できるため、過剰な座掘りを防止します。

セット内容	座掘りストッパー用カップ：1個	
	ザボリくんA	超硬チップ付座掘り錐A・直径50mm：1個
	座掘りカッター用シャフト(12mm)：1個	
	座掘りストッパー用カップ：1個	
ザボリくんB	超硬チップ付座掘り錐B・直径60mm：1個	
	座掘りカッター用シャフト(12mm)：1個	
梱 包	各1個／ケース	

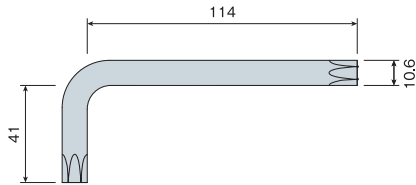
■使用例



MZ45用レンチ



■寸法



用 途

- MZ45の締め付け・締め直しに使います。

特 長

- 狭い箇所での作業に便利なL型レンチ形状です。

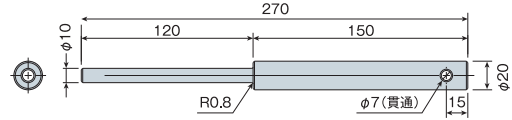
サ イ ズ 114×41mm T-55

梱 包 1個／ケース

ピン抜き棒



■寸法



用 途

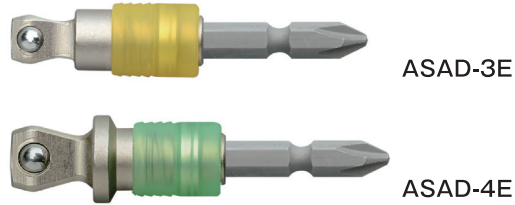
- ドリフトピンを木材面より深く打ち込む、または抜くといった作業時に使用します。

特 長

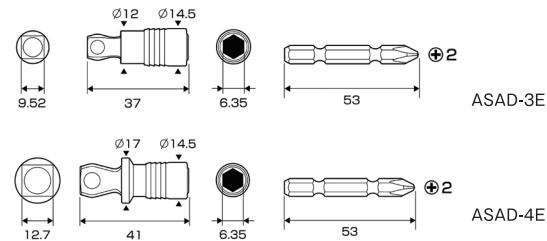
- 高強度で耐磨耗性の優れた素材を使用しているので、ハンマー等を用いた打撃でも変形することなく長くご使用いただけます。
- 穴があるため落下防止のワイヤーを取り付けることが出来ます。

サ イ ズ	グリップ部：φ20×L150mm
	先 端 部：φ10×L120mm
材 質	SKD11 (JIS G 4404)
表面処理	電気亜鉛めっき (JIS H 8610) Ep-Fe/Zn8/CM1

ビット交換式 ソケットアダプター **ANEX** **NEW!!**



■寸法



用 途

- アンカーボルト直結パイプ式柱脚金物PXBのアンカーボルトに取り付くM16ナットの締め付けに最適です。

特 長

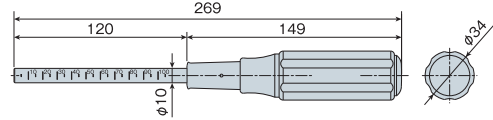
- 市販ソケットが差し込める変換アダプターです。
- 軸に電動ドライバービット使用でき、折れても交換できます。
- ストレートと首振り(傾き15°)の使い分けができます。

スケール棒

NEW!!



■寸法



用 途

- ドリフトピンを木材面より深く打ち込む、または抜くといった作業時に使用します。

特 長

- ドライバービットにも使用される素材を使用しているので変形しにくいです。
- メモリがついてるので打ち込む際の目安にできます。
- 軽量化して持ちやすくなりました。

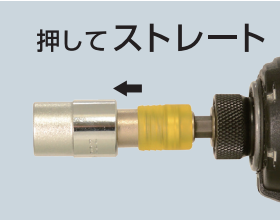
サ イ ズ	グリップ部：φ34×L149mm
	先 端 部：φ10×L120mm
材 質	クロムバナジウム鋼
表面処理	ニッケルクロムめっき



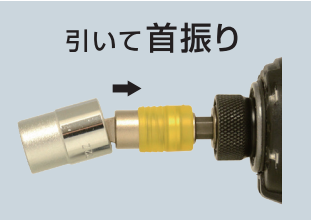
製品詳細
はこちら
Youtube



実際のボルト・ナットの締めに見える



※M16ナット用のソケットは別途用意してください。



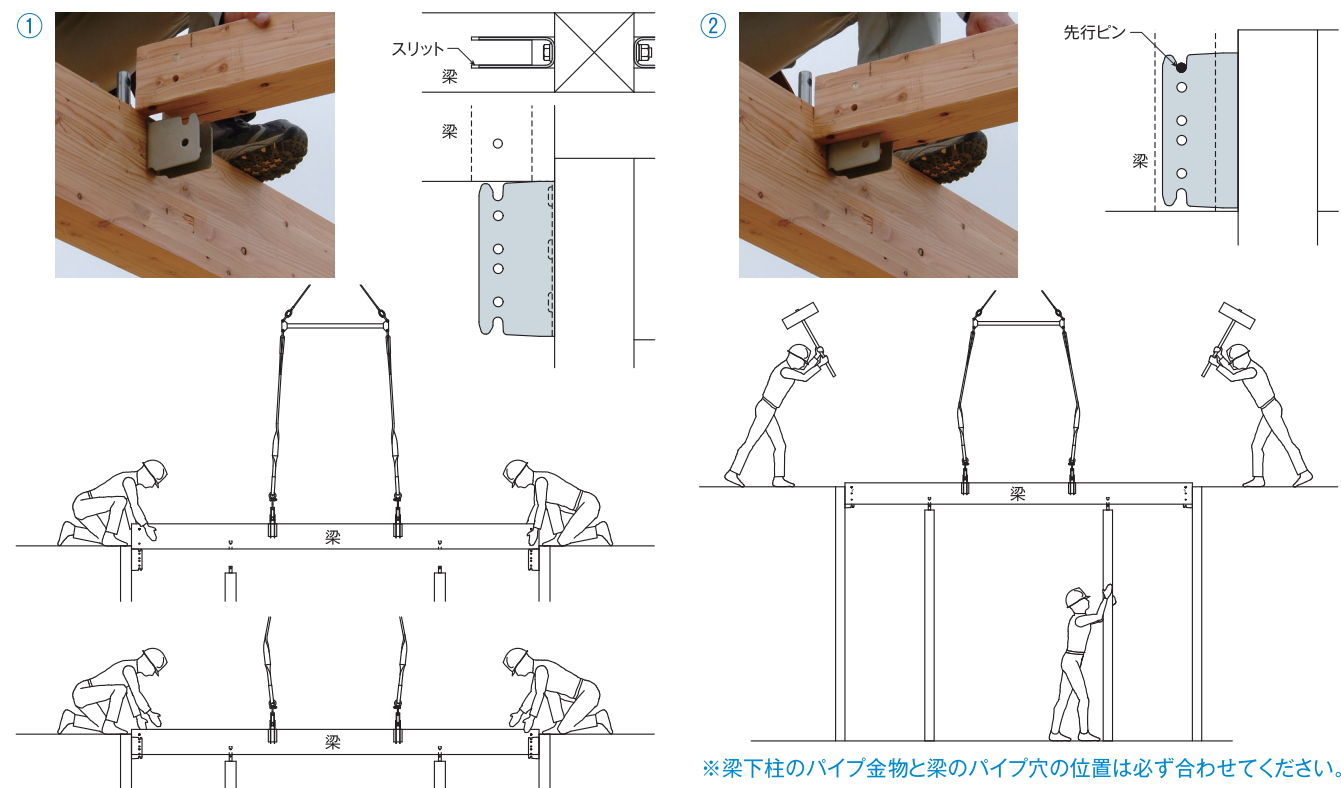
サ イ ズ	ASAD-3E：差込角9.52mm	ビット⌀2×53mm
	ASAD-4E：差込角12.7mm	ビット⌀2×53mm
梱 包	1個／ケース	

必ず手袋を着用し、金物の切断面に注意して作業してください。

梁の取り付け-1 [柱-柱間]

- ① 梁が金物に近づいたら水平に保ち、梁の両端部を金物天端に載せ吊りワイヤーを若干緩め、梁のスリットから金物が見通せる事を確認して、梁両端部から同時に手を放します。
- ② スリットに金物が納まったことを確認し、先行ピンがアゴ部に掛かるまで、カケヤなどで軽く叩きます。

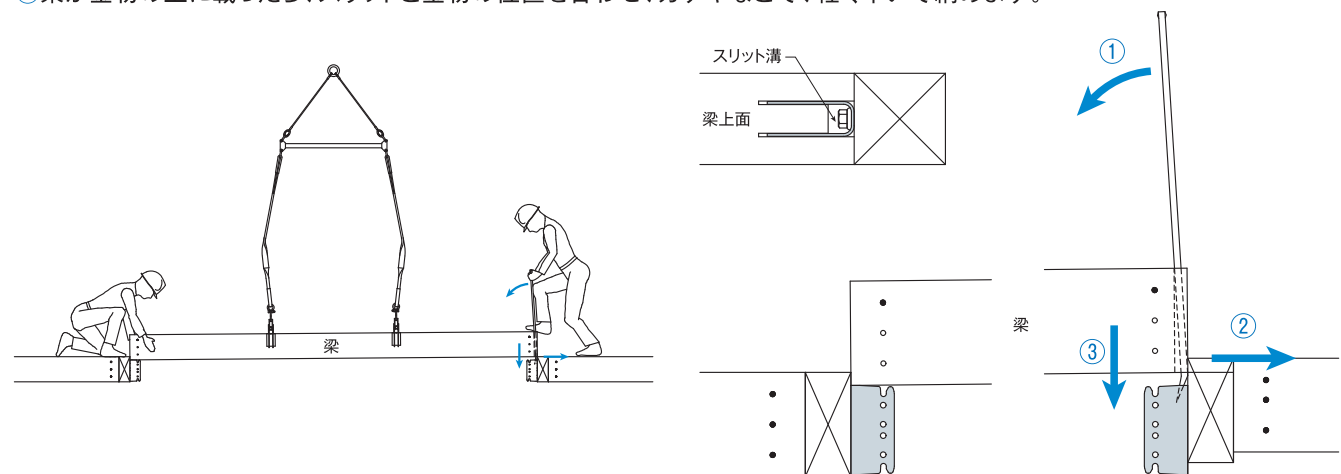
※梁の納まりが悪い場合は、加工及び金物の取り付け寸法等を確認してください。



梁の取り付け-2 [梁-梁間]

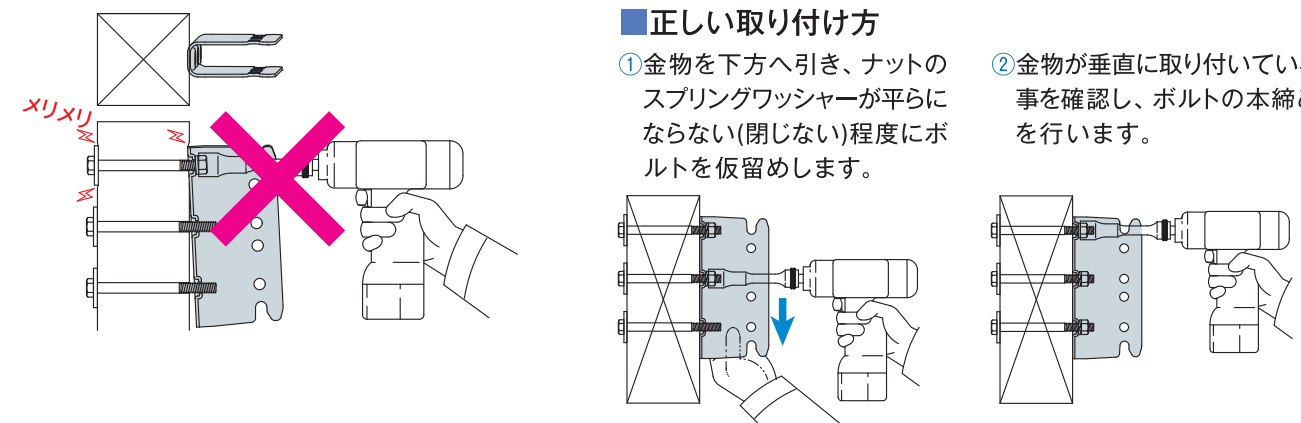
施工が進むにつれ、梁-梁間に梁を取り付けがなくなります。
このような場合には、梁-梁間を少しでも押し広げるように、施工を行ってください。

- ① パールなどをスリットの溝部分に差し込みます。
- ② 金物の取り付けいた梁を押し広げます。
- ③ 梁が金物の上に載ったら、スリットと金物の位置を合わせ、カケヤなどで、軽く叩いて納めます。



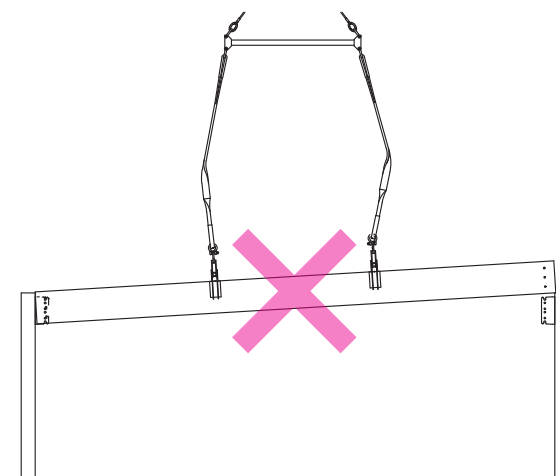
ボルト締めについて

梁受金物を取り付ける際には、ボルト及びナットをバクトナットのバネ座金が平らに閉じる程度に締め付けてください。下図のようにボルトを締め過ぎた場合、金物・座金が木材にめり込み、金物が斜めに取り付いたり、木材に割れが発生する恐れがありますのでご注意ください。



禁止行為

下図のように梁端部の一方を落し込んでしまうと、もう一方の梁端部が梁を受ける材(梁・柱)に乗り、納めにくくなります。また、梁受金物に先行ピンが乗りきらず、梁が落下する場合があります。必ず、両端部を水平に保ち、同時に納めてください。梁が傾いたまま、カケヤなどで無理に叩くと、梁及び金物が損傷する場合があります。



※梁を吊り上げる前に、先行ピンが打たれているか、必ず確認してください。

※大断面梁などの自重が重い梁を掛ける際は、先行ピンのみで梁の自重を支えられない可能性があるため、固定ピンを全て打ち込むまで吊り具は外さないでください。

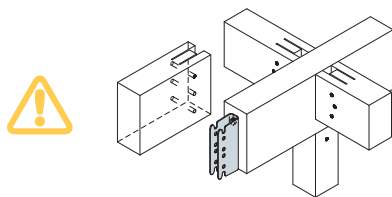
禁止・注意事項

以下、禁止・注意事項を参考に適切な設計・施工を行ってください。

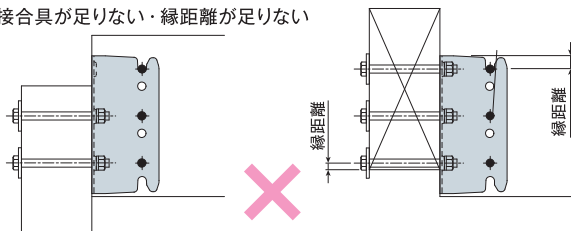


正規・推奨 注意・警告 禁止・不可

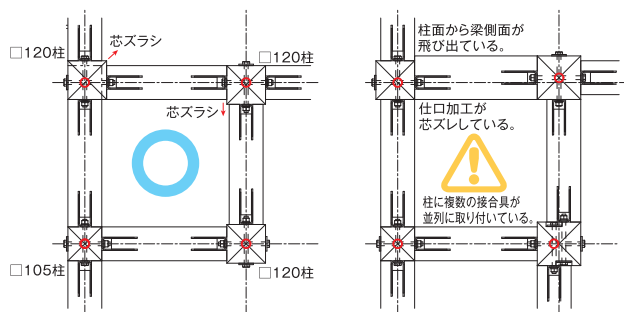
- ①用途以外には、使用しないでください。
- ②加工(変造・改造)しないでください。
- ③構造材に有害なザボリ等の欠き込みは、行わないでください。
- ④接合部耐力の許容値を超える設計は、行わないでください。
- ⑤屋外(暴露)・高温多湿等の特殊な使用環境下で使用しないでください。
- ⑥ボルトやドリフトピンが、熱橋とならないように対処してください。
- ⑦金物及び接合金物は鉄製です。表面処理(めっき等)がなくなると錆びます。表面処理は、水掛かり、異種金属との接触等々、水分の影響を受け減少しますので、上記2項目を含め、結露等の水分対策を講じてください。
- ⑧横架材と横架材の接合土台以外の横架材を途中で継ぐ場合は技術資料を参照してください。
- ⑨接合部(仕口・継手)の加工寸法及び接合方法は、変更しないでください。



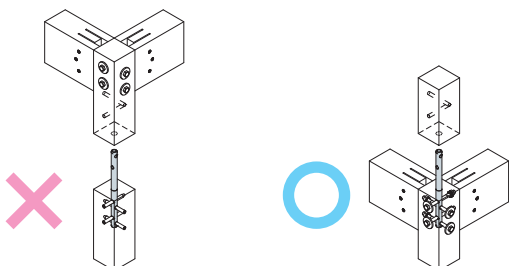
接合金具が足りない・縁距離が足りない



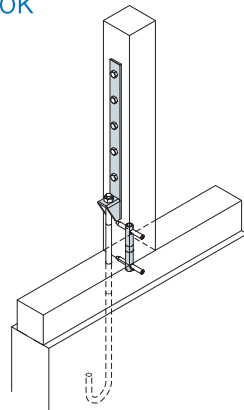
- ⑩仕口加工において部材芯と加工芯を合わせてください。木材と金物の芯がズれる場合、所定の接合耐力が得られないことがあります。(□105mm柱を基本とする建物にて□120mm柱の芯ズラシを行う場合を除く。)



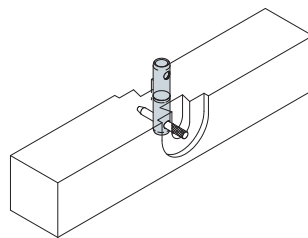
- ⑪柱の継手…柱の途中で継ぐことは出来ません。必ず横架材接合部の各階天端位置で柱継ぎパイプを使用してください。



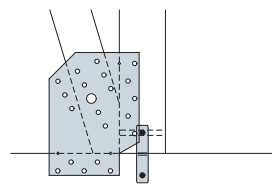
- ⑫補強金物と接合金物を併用しても耐力合算はできません。どちらか大きな耐力値を使用してください。
S-HD25: 25kN+HDP-10: 10.6kN=35.6kN←NG
S-HD25: 25.0kN←OK



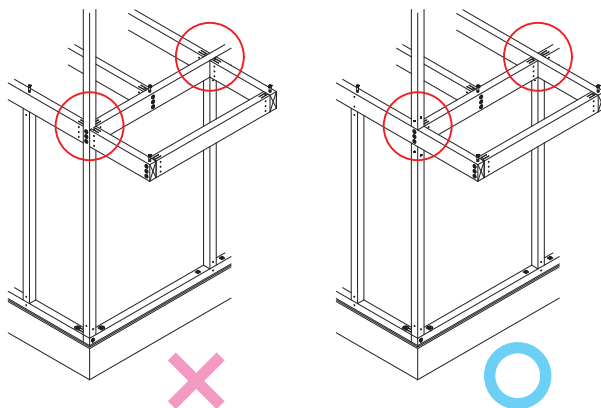
- ⑬在来軸組工法に接合金物を用いる場合は、在来仕口と干渉しない部位、耐力上支障のない範囲で使用してください。



- ⑭筋かい金物ほか補強金物を使用する際には、金物、接合金具が干渉しないことを確認してください。(パイプ金物に打ち込むドリフトピンの方向にご注意ください。)



- ⑮張り出し(片持ちになる)バルコニーや、オーバーハング部の接合は、張り出す梁を掛渡し(跳ね出し)とし、梁受金物単体の接合としないでください。



- ⑯接合金物に同梱の「付属品」がある場合は、「付属品」を正しくご使用ください。「付属品」を使用しない場合は、所定の耐力を保証できません。

※「禁止・注意・警告」事項の施工、構造材等のアテなどの不良等々により不具合が生じた場合、当社では責任を負いかねます。やむを得ず上記「禁止・注意・警告」行為を行う場合は、設計者の責任においてしかるべき補強等を行うことをお勧めいたします。